別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾄｳｷｮｳｷﾘｽﾄｷｮｳｶﾞｸｴﾝ 学校法人　東京キリスト教学園	
フリガナ 大学の名称	ﾄｳｷｮｳｷﾘｽﾄｷｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 東京基督教大学　(Tokyo Christian University)	
大学本部の位置	千葉県印西市内野３丁目３０１番５	
大学の目的	福音主義キリスト教の信仰に基づいて、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従い、キリスト者である男女を牧師、伝道師、宣教師およびその他のキリスト教奉仕者として養成することを目的とする。	
新設学部等の目的	神学部総合神学科 ア．プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成する。 イ．上記の人材養成目標を達成するために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養を目指す。具体的には、所定の期間在学し、本学の教育目標に沿って設定された授業科目（講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチを含む。）を履修して、基準となる単位を修得し、以下の基準を満たし卒業判定に合格した者に学位を授与する。①プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。②本学の超教派の理念を肯定的に理解している。③修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。④クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。⑤神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている ウ．牧師、伝道師等の教会教職者（大学院への進学を奨励する）、神学教師等の教育・研究者（大学院への進学を奨励する）、キリスト教関係諸団体のスタッフ、キリスト教関係企業・福祉施設等の職員、その他広く一般企業・福祉施設・各種団体の職員等	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
神学部 (Undergraduate School of Theology)								
総合神学科 (Theological Studies Department)	4	33	3年次 14	160	学士（神学） (Bachelor of Arts)	2021(令和3)年4月　第1年次 2023(令和5)年4月　第3年次	千葉県印西市内野３丁目３０１番５	
計		33	3年次 14	160				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	備考
神学部 神学科（廃止）　（△17） （3年次編入学定員）　（△14） ※2021(令和3)年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は2023(令和5)年4月学生募集停止） 国際キリスト教福祉学科（廃止）　（△16） ※2021(令和3)年4月学生募集停止	

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	備考
	講義	演習	実験・実習	計		
神学部総合神学科	93科目	63科目	12科目	168科目	124単位	

教員組織の概要

学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	備考
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	神学部総合神学科	8 (5)	7 (5)	1 (0)	4 (2)	20 (12)	2 (2)	34 (13)	
新設分	計	8 (5)	7 (5)	1 (0)	4 (2)	20 (12)	2 (2)	－ (－)	
既設分									
合計		8 (5)	7 (5)	1 (0)	4 (2)	20 (12)	2 (2)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	19 人 (19)	4 人 (4)	23 人 (23)	
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	図書館専門職員	1 (1)	1 (0)	2 (1)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	20 (20)	5 (4)	25 (24)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	35,493.94 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,493.94 ㎡
	運動場用地	23,432.50 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	23,432.50 ㎡
	小計	58,926.44 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	58,926.44 ㎡
	その他	19,123.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	19,123.00 ㎡
	合計	78,049.44 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	78,049.44 ㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	6,248.84 ㎡ (6,248.84 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	6,248.84 ㎡ (6,248.84 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	１４室	４室	３室	１室 （補助職員１人）	１室 （補助職員０人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	神学部総合神学科	25 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	神学部総合神学科	123500〔44500〕 (119000〔43000〕)	760〔330〕 (710〔300〕)	75〔60〕 (45〔40〕)	980 (980)	0 (0)	0 (0)	学部単位での特定不能なため，大学全体の数
	計	123500〔44500〕 (119000〔43000〕)	760〔330〕 (710〔300〕)	75〔60〕 (45〔40〕)	980 (980)	0 (0)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	1,085.08 ㎡	60	130,000

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要
	767.85 ㎡	なし

大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		教員１人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円			図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む。
		共同研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円			
		図書購入費	10000千円	10000千円	10000千円	10000千円	10000千円			
		設備購入費	6000千円	6000千円	6000千円	6000千円	6000千円			

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1004千円	1004千円	1004千円	1004千円	千円	千円
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、寄付金収入、資産運用収入、雑収入					

既設大学等の状況	大学の名称	東京基督教大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	神学部 神学科	4	17	3年次 14	96	学士（神学）	1.08	1990(平成2)年	千葉県印西市内野３丁目３０１番５	2021(令和3)年4月学生募集停止
	国際キリスト教福祉学科	4	16	―	64	学士 (国際ｷﾘｽﾄ教学) (ｷﾘｽﾄ教福祉学)	0.88	2008(平成20)年		2021(令和3)年4月学生募集停止
	神学研究科 神学専攻博士前期課程	2	18	―	36	修士(神学)	0.64	2012(平成24)年	同上	
	神学専攻博士後期課程	3	2	―	6	博士(神学)	0.00	2014(平成26)年		

附属施設の概要	名称：共立基督教研究所 目的：キリスト教神学および諸科学並びに諸文化に関する理論的および実践的調査研究、およびそれに関わる諸活動 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：1979(昭和54)年４月 規模等：建物　0㎡（後述「国際宣教センター」と施設を共用）
	名称：国際宣教センター 目的：教会がその文化に深く根を下ろし、福音が人々に明確にされ、文化の向上が計られるために、理論と実践を統合して、教会の世界における「包括的使命」を促進する業務を行なうこと 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：2003(平成15)年４月 規模等：建物　419.58㎡
	名称：男子学生寮 目的：寄宿舎　独身男子学生用 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：1989(平成元)年4月 規模等：建物　1,987.09㎡
	名称：女子学生寮 目的：寄宿舎　独身女子学生用 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：1989(平成元)年4月 規模等：建物　1,987.09㎡
	名称：既婚学生寮 目的：寄宿舎　既婚子学生用 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：1989(平成元)年4月 規模等：建物　1,341.36㎡
	名称：シオン寮 目的：寄宿舎　独身男・女子学生用 所在地：千葉県印西市内野３丁目301番5 設置年月：2004(平成16)年4月 規模等：建物　698.52㎡

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教　育　課　程　等　の　概　要

（神学部総合神学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コア科目	TCUスタンダード	1通	6				○		1	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	キリストと世界Ⅰ（神学）	1②	2			○			1						
	キリストと世界Ⅱ（新約）	1③	2			○			1						
	キリストと世界Ⅲ（旧約）	2①	2			○			1						
	霊的形成	1③	2			○			1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	クリスチャンライフ・フォーメーション1	1通	4				○			2					
	クリスチャンライフ・フォーメーション2	2通	4				○		1	1					
	クリスチャンライフ・フォーメーション3	3通		4			○			1					
	クリスチャンライフ・フォーメーション4	4通		4			○		1						
	TCU Standard	1通	6				○		1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	Christ and the World Ⅰ: Issues Facing the Church Today	1③	2			○			1						
	Christ and the World Ⅱ: Issues Facing the Church through Time	1①	2			○				1					
	Christ and the World Ⅲ: Issues Facing Ancient Israel and the Early Church	2②	2			○			1						
	Spiritual Development	1③	2			○				1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	Christian Life Formation 1	1通	4				○			1					
	Christian Life Formation 2	2通	4				○			1					
	Christian Life Formation 3	3通		4			○					1			
	Christian Life Formation 4	4通		4			○					1			
	小計（18科目）	－	44	16	0	－			6	4		2		兼1	－
教養科目	基礎演習	1①		2			○			3					
	情報リテラシー	1①		2		○								兼1	
	キャリア教育	1②		2		○								兼1	
	人文Ⅰ（文学）	1・2		2		○								兼1	
	人文Ⅱ（西洋思想）	1・2		2		○				1					隔年
	人文Ⅲ（東洋思想）	1・2		2		○			1						
	人文Ⅳ（キリスト教倫理）	1・2		2		○				1					隔年
	人文Ⅴ（キリスト教哲学）	3		2		○								兼1	
	社会科学Ⅰ（保育学）	1・2		2		○								兼1	
	社会科学Ⅱ（女性と社会）	1・2		2		○				1					
	社会科学Ⅲ（心理学Ⅰ）	2・3		2		○			1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	社会科学Ⅳ（心理学Ⅱ）	2・3		2		○			1			1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	社会科学Ⅴ（平和学）	3		2		○			1	2				兼1	隔年、ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	社会科学Ⅵ（言語学）	3		2		○				1					隔年
	教会音楽Ⅰ（ミュージックミニストリー）	1・2		2		○								兼1	
	教会音楽Ⅱ（教会音楽の歴史）	2・3		2		○			1					兼2	隔年、ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教会音楽Ⅲ（教会音楽の実際）	2・3		2			○		1					兼3	隔年、ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教会音楽Ⅳ（クワイア）	1・2・3・4通		2				○						兼1	
	教会音楽Ⅴ（オルガンレッスン）	1・2・3・4通		2				○						兼1	
	教会音楽Ⅵ（ピアノレッスン）	1・2・3・4通		2				○						兼1	
	教会音楽Ⅶ（声楽レッスン）	1・2・3・4通		2				○						兼1	
	教会音楽Ⅷ（ギターレッスン）	1・2・3・4通		2				○						兼1	
	Academic Research and Writing	1②		2			○			1					
	Psychology Ⅰ	1・2		2		○								兼1	隔年
	Psychology Ⅱ	1・2		2		○								兼1	隔年
	Survey of Western Philosophy	1・2		2		○				1					隔年
	Great Books Ⅰ: Western Philosophy	1		2			○			1					
	Great Books Ⅱ: Japanese Literature	1		2			○		1						

	Great Books Ⅲ: Sacred Books of the East	2・3		2			○		1						隔年
	Great Books Ⅳ: Christian Classics	2・3		2			○			1					隔年
	Great Books Ⅴ: 19th & 20th Century Novels	3・4		2			○					1			隔年
	Great Books Ⅵ: Social Sciences	2・3		2			○			1					隔年
	Great Books Ⅶ: Natural Sciences	3・4		2			○			1					隔年
	スポーツⅠ	1・2①		1				○						兼1	
	スポーツⅡ	1・2②		1				○						兼1	
	小計(35科目)	－	0	68	0		－		5	6		2		兼14	－
語学科目（現代言語）	Total English 1-A	1・2①		4			○					1			
	Total English 1-B	1・2①		4			○			1					
	Total English 1-C	1・2①		4			○			1					
	Total English 2-A	1・2②		4			○					1			
	Total English 2-B	1・2②		4			○			1					
	Total English 2-C	1・2②		4			○			1					
	Total English 3-A	1・2③		1			○					1			
	Total English 3-B	1・2③		1			○			1					
	Total English 3-C	1・2③		1			○			1					
	Pre-EISA (海外英語研修準備)	2①		1			○			1					
	EISA (海外英語研修)	2休		4				○		1					
	韓国語1（基礎）	2②		2			○					1			
	韓国語2（初級）	2③		2			○					1			
	韓国語3（中級）	3①		2			○					1			
	中国語1（基礎と台湾文化入門）	2③		2		○						1			
	中国語2（初級）	3①		2			○					1			
	Elementary Japanese Language and Culture 1	1②		4			○			1					
	Elementary Japanese Language and Culture 2	1③		4			○			1					
	Elementary Japanese Language and Culture 3	1①		4			○			1					
	Intermediate Japanese Language and Culture 1	2②		4			○							兼1	
	Intermediate Japanese Language and Culture 2	2③		4			○							兼1	
	Intermediate Japanese Language and Culture 3	2①		4			○							兼1	
	Advanced Japanese Language and Culture 1	3・4②		2			○			1					
	Advanced Japanese Language and Culture 2	3・4③		2			○			1					
	Advanced Japanese Language and Culture 3	3・4①		2			○			1					
	Japanese Extensive Reading and Listening 1	2・3②		2			○							兼1	
	Japanese Extensive Reading and Listening 2	2・3③		2			○							兼1	
	Japanese Extensive Reading and Listening 3	2・3①		2			○							兼1	
	Mastering Kanji 1	1・2②		1			○		1						
	Mastering Kanji 2	1・2③		1			○		1						
	Mastering Kanji 3	1・2①		1			○		1						
	小計(31科目)	－	0	81	0		－		1	2		3		兼2	－
語学科目（聖書言語）	ヘブライ語1（文法1）	3・4①		2			○							兼1	
	ヘブライ語2（文法2）	3・4②		2			○							兼1	
	ヘブライ語3（文法3）	3・4③		2			○							兼1	
	ヘブライ語4（講読1）	4①		1			○							兼1	
	ヘブライ語5（講読2）	4②		1			○							兼1	
	ギリシア語1（文法1）	3・4①		2			○					1			
	ギリシア語2（文法2）	3・4②		2			○					1			
	ギリシア語3（文法3）	3・4③		2			○					1			
	ギリシア語4（講読1）	4①		1			○		1						
	ギリシア語5（講読2）	4②		1			○		1						

	小計(10科目)	－	0	16	0	－			1			1		兼2	－
聖書学	聖書学Ⅰ(旧約通論)	2･3②		2		○			1						
	聖書学Ⅱ(福音書)	2･3③		2		○			1						
	聖書学Ⅲ(モーセ五書)	3･4①		2		○								兼1	
	聖書学Ⅳ(預言書･聖文書)	3･4②		2		○			1						
	聖書学Ⅴ(書簡)	3･4③		2		○								兼1	
	Biblical Studies Ⅰ: Old Testament Survey	1･2		2		○			1						隔年
	Biblical Studies Ⅱ: New Testament Survey	1･2		2		○			1						隔年
	Biblical Studies Ⅲ: Approaches to Biblical Interpretation	2･3		2		○			1						隔年
	Biblical Studies Ⅳ: Topics in Biblical Theology	3･4		2		○								兼1	隔年
	Biblical Studies Ⅴ: Selected Biblical Books	3･4		2		○			1						隔年
	小計(10科目)	－	0	20	0	－			4					兼3	－
実践神学	実践神学Ⅰ(説教学)	3･4①		2		○			1						
	実践神学Ⅱ(メッセージの方法と実践)	2･3②		2			○		1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	実践神学Ⅲ(説教演習)	3･4③		2			○							兼1	
	実践神学Ⅳ(礼拝学)	2･3		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	実践神学Ⅴ(宣教学)	2･3		2		○				1					
	実践神学Ⅵ(牧会学)	3･4		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	実践神学Ⅶ(牧会カウンセリング)	3･4		2		○								兼1	
	Practical Theology Ⅰ: Introduction to Christian Ministry in Japan	1･2		2		○								兼1	隔年
	Practical Theology Ⅱ: Missiology	1･2		2		○				1					隔年
	Practical Theology Ⅲ: Public Speaking: Theory and Practice	2･3		2			○							兼1	隔年
	Practical Theology Ⅳ: Christian Ethics	2･3		2		○				1					隔年
	Practical Theology Ⅴ: Christian Education	3･4		2		○								兼1	隔年
	Practical Theology Ⅵ: Christian Apologetics: Defending Faith with Reason	3･4		2		○				1					隔年
	Practical Theology Ⅶ: Philosophy and Theology of Music	3･4		2		○								兼1	隔年
	小計(14科目)	－	0	28	0	－			3	3				兼8	－
組織神学・歴史神学	組織神学Ⅰ(神論･人間論･キリスト論)	2･3		2		○						1			
	組織神学Ⅱ(救済論･教会論･終末論)	2･3		2		○						1			
	歴史神学Ⅰ(古代･中世)	2･3		2		○						1			
	歴史神学Ⅱ(宗教改革･近現代)	2･3		2		○						1			
	歴史神学Ⅲ(旧約聖書史/考古学)	2･3		2		○			1						隔年
	歴史神学Ⅳ(第二神殿時代史/考古学)	3･4		2		○			1						隔年
	歴史神学Ⅴ(信条学)	3･4		2		○								兼1	
	歴史神学Ⅵ(日本キリスト教通史)	3･4		2		○			1						
	Christian History and Tradition Ⅰ: Ancient and Medieval Church History	1･2		2		○				1					隔年
	Christian History and Tradition Ⅱ: The Reformation and Modern Church History	1･2		2		○				1					隔年
	Christian History and Tradition Ⅲ: The Heidelberg Catechism	2･3		2		○						1			隔年
	Christian History and Tradition Ⅳ: Science and Religion	2･3		2		○								兼1	隔年
	Christian History and Tradition Ⅴ: Systematic Theology	3･4		2		○								兼1	隔年
	Christian History and Tradition Ⅵ: Japanese Church History	3･4		2		○			1						隔年
	小計(14科目)	－	0	28	0	－			2	1		2		兼2	－

ユース・スタディーズ	ユース・ミニストリーⅠ（神学と実践）	2・3		2		○			1							
	ユース・ミニストリーⅡ（思春期の理解）	2・3		2		○			1							
	キリスト教教育Ⅰ（神学と理念）	2・3		2		○						1				
	キリスト教教育Ⅱ（方法と実践）	2・3		2		○						1				
	小計（4科目）	－	0	8	0	－			1			1				－
キリスト教福祉	キリスト教福祉Ⅰ（人間の尊厳と自立）	2・3		2		○								兼1		
	キリスト教福祉Ⅱ（人間関係とコミュニケーション）	2・3		2		○			1		1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	キリスト教福祉Ⅲ（社会福祉論）	2・3		2		○				1						
	キリスト教福祉Ⅳ（キリスト教公共福祉論）	2・3		2		○				1						
	キリスト教福祉Ⅴ（介護福祉）	3・4		2		○			1							
	キリスト教福祉Ⅵ（こころとからだのしくみ）	2・3		2		○					1					
	キリスト教福祉Ⅶ（生活支援技術）	2・3		2		○					1					※演習
	キリスト教福祉Ⅷ（介護過程）	2・3		2		○			1							
	キリスト教福祉Ⅸ（障がいの理解）	2・3		2		○				1				兼1		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	キリスト教福祉Ⅹ（精神保健福祉論）	2・3		2		○				1						隔年
	小計（10科目）	－	0	20	0	－			1	1	1			兼2		－
グローバル・スタディーズ	グローバル・スタディーズⅠ（異文化理解）	2・3		2		○				1						
	グローバル・スタディーズⅡ（グローバル・スタディーズ入門）	2・3		2		○				1						
	グローバル・スタディーズⅢ（地域文化論：日本） Global Studies Ⅲ: Japanese Arts and Aesthetics	2・3		2		○			1					兼1		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	グローバル・スタディーズⅣ（地域文化論：韓国）	3		2		○						1				
	グローバル・スタディーズⅤ（文化人類学と宣教）	3		2		○				1						
	グローバル・スタディーズⅥ（国際協力論）	3		2		○				1						隔年
	グローバル・スタディーズⅦ（リーダーシップと組織マネジメント）	3		2		○				1						
	グローバル・スタディーズⅧ（日本語教育）	3・4		2		○				1						隔年
	グローバル・スタディーズⅨ（地域文化論：アフリカ） Global Studies Ⅸ: Introduction to African Culture	3・4		2		○				1		1				隔年、ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	Global Studies Ⅰ: Intercultural Communication	1②		2		○				1						
	Global Studies Ⅱ: Introduction to Global Studies	2・3		2		○			1			1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	Global Studies Ⅳ: TESOL	2・3		2		○								兼1		隔年
	Global Studies Ⅴ: International Development	3		2		○				1						隔年
	Global Studies Ⅵ: Religion and Public Policy	3・4		2		○								兼1		隔年
	Global Studies Ⅶ: Religion and Society in Japan	3・4		2		○								兼1		隔年
	Global Studies Ⅷ: Japan Encounters the West	3・4		2		○								兼1		隔年
	Global Studies Ⅹ: Crucial Issues in Asia	3・4		2		○								兼1		隔年
	小計（17科目）	－	0	34	0	－			2	3		2		兼5		－
統合科目	専門演習	3・4通		2			○		4	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ(一部)
	実習A	3・4		2				○	2	2		2		兼1		
	実習B	3・4		4				○		1						
	実習C	3・4		6				○				1				
	卒業研究	3～4		6				○	7	7		4				
	小計（5科目）	－	0	20	0	－			7	7		4		兼1		－
合計（168科目）		－	44	339	0	－			8	7	1	4		兼33		－

学位又は称号	学士（神学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
コア科目から必修科目を22単位、各科目区分から選択科目を102単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。なお、専攻指定科目40単位以上を修得した場合は、専攻の修了を認める。 （履修科目の登録の上限：年間38単位（編入学生は年間48単位））	1学年の学期区分	3学期
	1学期の授業期間	10週
	1時限の授業時間	140分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（神学部総合神学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コア科目	TCUスタンダード	1年目に履修する科目です。ラーニング・コミュニティとしての共同体形成を重視しながら、東京基督教大学が土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、自己理解、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にクリスチャンとしての自分自身を位置付ける視点を養うことを目的としています。演習形式で行います。 （オムニバス方式／全30回） （10　岩田三枝子　18回） キリスト教世界観、寮生活、キリスト者の性・恋愛・結婚観、全体の総括 （42　立山剛　9回） 自己理解、他者理解、障がい者理解 （1　山口陽一　3回） 自校教育、建学の精神	オムニバス方式
	キリストと世界Ⅰ（神学）	キリスト教神学の基礎を、大きく二つのテーマを掲げ、前半と後半に分けて学びます。前半は「神学とは何か」「神学的に考えるとはどういうことか」「現代社会と神学の間にはどのような関係性があるか」といった根本的な問いを中心に、神学を身近なものとして共に考えます。後半は、キリスト教福音主義神学の最も重要な教義のひとつである「聖書論（啓示論）」について、聖書の権威、聖書の霊感性、聖書の無誤性、聖書の正典性等のトピックを中心に学びます。講義形式で行います。	
	キリストと世界II（新約）	ナザレのイエスは、紀元前パレスティナに生を受けて数十年の生涯を送りました。数年の「公生涯」の終わり、紀元30年頃にローマに反逆した廉で十字架で処刑されました。ところが、弟子たちは、死んで三日目にイエスがよみがえったと信じるようになり、イエスが主であり、救い主であると宣教し始めました。彼らが書き残した諸文書が結集されて新約聖書となりました。当時の世界でイエスがキリストであると信じて生きることの意味について共に考えます。講義形式で行います。	
	キリストと世界Ⅲ（旧約）	教会における聖書の読み方は新約に偏重する傾向があります。本来、キリスト教世界観とその信仰の実践的展開には旧約聖書の神学は不可欠なものです。旧約と新約の一体感と連続性に留意しつつ、聖書全体の歴史的流れ、各書の位置づけ、背景となる地理、旧約聖書から始まる世界観、言語と聖書翻訳の基本的知識を掴むことに主眼を置き、クリスチャンとして聖書を全体として読む意義と幸いを体験的に得ることを最大の目的とします。講義形式で行います。	
	霊的形成	クリスチャンとしての生涯をそれぞれが豊かに生き抜いていくことを目指し、神を知ることと同時に、自分自身の全体像をよく知ることにも取り組みます。無自覚な自分の心の姿に気付いていくなら、神との距離は近くなるものです。また、ひとりで聖書を読み、祈る生活とともに、教会の礼拝に出席し、奉仕をすることで信仰共同体を形成していくこと、またその共同体の交わりの中でこそ霊的形成がなされることを学びます。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （2　大和昌平　5回） 神を知ることだけでなく、自分の心に注意深くなることにより、霊的形成を目指してゆく。 （17　齋藤五十三　5回） ボンヘッファー著「共に生きる生活」を中心に、豊かな信仰共同体の形成を実践的に学ぶ。	オムニバス方式

クリスチャンライフ・フォーメーション1	1年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル（全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります）への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
クリスチャンライフ・フォーメーション2	2年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル（全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります）への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
クリスチャンライフ・フォーメーション3	3年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル（全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります）への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
クリスチャンライフ・フォーメーション4	4年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル（全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります）への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
TCU Standard	This is a course for first-year students to acquire insights and skills necessary for success in academic life, student life, and extra-curricular life at Tokyo Christian University. It aims to help students cultivate a Christian worldview; think responsibly about their spiritual development; grow in their self-understanding; develop academic and social skills; build a foundation for Christian character development; and understand their places as Christians living and working within the contexts of history, culture, and society. The course will also introduce students to the various majors, and offer them guidance for choosing a major at the beginning of their third year. （和訳）大学入学初年次に履修する科目です。ラーニング・コミュニティとしての共同体形成を重視しながら、東京基督教大学が土台とするキリスト教世界観に基づいた自校教育、自己理解、ソーシャルスキル、キリスト教人格教育の土台を形成し、歴史、文化、社会の中にキリスト者としての自分自身を位置付ける視点を養うことを目的としています。また3年次以降の専攻選択のためのガイダンスも行います。演習形式で行います。 （オムニバス方式／全30回） （7　ショート・ランドル　15回） 自校教育と建学の精神、キリスト教世界観、人生を支えるリベラルアーツ教育、アカデミック・ライフ、学習習慣、時間管理、批判的思考への招き、神学的思考への招き、全体の総括 （20　バビリエ・レベッカ　15回） 寮生活、キリスト者の性・恋愛・結婚観、自己理解、他者理解、障がい者理解、学外活動、召命感	オムニバス方式

Christ and the World I: Issues Facing the Church Today	This course introduces students to Christ's relevance in their contemporary context by exploring the church's call to perceptive biblical engagement in the most pressing conundrums and fractures besetting all corners of culture, local and global. From the impact of religious extremism, to the rise of naturalistic atheism, to the popularity of pluralism, the church's concept of God continues to require reevaluation and articulation. Simultaneously, the church grapples with embodying a biblical concept of community that dignifies all image-bearers. For instance, presently salient—particularly for Japan—is navigating issues of gender and sexuality. The church faces fresh challenges in its relation to power as structures consolidating influence now incorporate complex international and economic dynamics. As technological advancement ushers in an unprecedented information age and exposes environmental crises, the church encounters a new set of hermeneutical hurdles, considering if and how the Bible speaks to such matters. With issues multiplying and modulating at a dizzying pace, this course seeks to invigorate students' pursuit of a Christian liberal arts education as an invaluable asset for coming to think and relate in redemptive kingdom-oriented ways that bear the life-renewing presence of Christ into His world today. （和訳）身近なことからグローバルなことまで、現代のクリスチャンが考えるべき課題について共に考え、それらの課題を解決するために必要な知識や実践力を身につけることを目指します。宗教的過激主義や原理主義の影響、自然主義的無神論の台頭、排他主義と多元主義の論争、ジェンダーやセクシュアリティ、政治権力、技術の進歩、環境危機などに関する課題を考察し、キリスト教の正典である旧新約聖書や、これまで継承されてきた神学的知見からの示唆や視点を学びます。講義形式で行います。	
Christ and the World II: Issues Facing the Church through Time	The manner in which the church during two-thousand years of history has maneuvered disastrously and gracefully through challenges within and without serves as a rich repository for the twenty-first century church as inheritors of their heritage. This course will consider major creeds and confessions of early Christianity that sought to safeguard a biblical conception of the Trinity and Christ from various heretical alternatives. As Christianity spread to new regions and cultures, the church encountered opportunities for pioneering social reform and ministry to the marginalized while struggling to maintain unity within expanding diversity. Moreover, growing from a persecuted minority to a powerful majority, the church was catapulted through power-dynamic dilemmas, from the institutionalization of Christianity under Constantine, to schisms between different East-West ecclesial power centers, to the wielding of a Crusade sword in the name of advancing God's kingdom. Moving into the modern era, Enlightenment exaltation of scientific and rational processes spawned ventures into biblical criticism that disputed many forgone hermeneutical conclusions. Taking in a historical and doctrinal sweep of church development, students in this course should step forward into contemporary Christian engagement having learned from the bungles and breakdowns, tenacity and triumphs, of the community of saints. （和訳）過去2000年にわたって、古今東西の教会が直面してきた危機や課題について共に考え、批判的に検討しながら、その遺産を受け継いだ現代の教会が学ぶべきことや、その方法について学びます。三位一体論やキリスト論を様々な異端から守ろうとした古代キリスト教会の主な信条や告白を取り上げて、正統と異端の論争、教義・教理の発展、宗教と権力や政教分離、信仰と理性、キリスト教の土着化、キリスト教の普遍性と特殊性、聖書やキリスト教伝統の位置付けなどのテーマについて考察します。講義形式で行います。	

Christ and the World III: Issues Facing Ancient Israel and the Early Church	Struggles faced by the Bible's original audiences to discern and abide by God's redemptive plan provide vital wisdom for today's church. Situated in a land of geo-political and agricultural vulnerability, ancient Israel faced constant threats to their concept of God from polytheistic neighbors who appeased territorial gods to flourish; pagan deities and cultic emperor worship presented analogous temptations to syncretism in the New Testament's Greco-Roman milieu. Social issues also loomed large: Old Testament prophets repeatedly cried out for the poor, orphan, widow, and foreigner, and the earliest Christians navigated the gospel's call for socially radical equality and incorporation of Jews and Gentiles into one body. God's people continually wrestled with relating to power—royal and religious—despite the biblical text's insistence on God's universal sovereignty and righteousness and justice marking human leadership. Hermeneutically speaking, the Babylonian exile posed jarring covenantal issues, given Israel's breach and God's age-old promises to Israel; the New Testament church interpreted Jesus in light of those very promises, while warding off infiltrations by false teachers. Through this course students should grow in understanding the covenant story of God that provides the only foundation for a faithful and flourishing life in the world. (和訳)古代イスラエルと初代教会が直面した危機や課題について共に考え、批判的に検討しながら、学問的に旧新約聖書を釈義し解釈する可能性と限界について学びます。一神教と多神教の対立、「神の民」や「神の国」の聖書的概念、宗教と倫理の相剋、宗教と戦争、宗教と権力、弱者への配慮や弾圧、民族的・集団的トラウマ、宗教間の対話と対立、正典としての聖書の生成などのテーマを扱います。この授業において学生には、唯一の神の契約に基づく歴史展開の理解を深めることが求められます。講義形式で行います。	
Spiritual Development	Spiritual development is a course designed to give you space to reflect on your spiritual development and identity. It offers a blend of discussion and experiential exercises, and it employs the action-reflection model of learning. In this course we will read classical texts to study the nature of spiritual formation and the various ways that Christians have sought to deepen their relationship with God, and students will be expected to reflect on these both individually and with a reflection partner. (和訳)自己の霊的形成とアイデンティティについて学生がじっくり考える機会を提供することを意図した科目です。授業ではディスカッションと体験的な演習を組合せ、実践-省察モデルを用いて学びます。霊的形成の本質やキリスト者がいかに神との関係を深めようとしてきたかを伝統的な文献を通して学び、学生は個人的に、また省察パートナーとその内容について熟考することが期待されています。講義形式で行います。 (オムニバス方式／全10回) (11　サイツマ・デイビッド　5回) 精神的・霊的生活の性質と様々な側面、精神的・霊的生活の模範 (20　バビリエ・レベッカ　5回) 精神的・霊的生活のチャレンジと形成	オムニバス方式

Christian Life Formation 1	This is a course for first-year students. Christian Life Formation aims to cultivate in students the will and ability to serve God, Church, and society through (1) attending the university's daily chapel services, (2) reflecting on dorm and student life, and (3) participating in local church worship each Sunday. Students will deepen their self-understanding through self-evaluations and professors' evaluations of their activities in these three areas, and thereby seek growth in accordance with their goals for personal development. (和訳)1年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル(全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります)への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
Christian Life Formation 2	This is a course for second-year students. Christian Life Formation aims to cultivate in students the will and ability to serve God, Church, and society through (1) attending the university's daily chapel services, (2) reflecting on dorm and student life, and (3) participating in local church worship each Sunday. Students will deepen their self-understanding through self-evaluations and professors' evaluations of their activities in these three areas, and thereby seek growth in accordance with their goals for personal development. (和訳)2年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル(全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります)への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	
Christian Life Formation 3	This is a course for third-year students.Christian Life Formation aims to cultivate in students the will and ability to serve God, Church, and society through (1) attending the university's daily chapel services, (2) reflecting on dorm and student life, and (3) participating in local church worship each Sunday. Students will deepen their self-understanding through self-evaluations and professors' evaluations of their activities in these three areas, and thereby seek growth in accordance with their goals for personal development. (和訳)3年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル(全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります)への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	

	Christian Life Formation 4	This is a course for fourth-year students. Christian Life Formation aims to cultivate in students the will and ability to serve God, Church, and society through (1) attending the university's daily chapel services, (2) reflecting on dorm and student life, and (3) participating in local church worship each Sunday. Students will deepen their self-understanding through self-evaluations and professors' evaluations of their activities in these three areas, and thereby seek growth in accordance with their goals for personal development. (和訳)4年目に履修する科目です。①大学におけるチャペル(全体チャペル、小グループや専攻別に分かれてのチャペルがあります)への参加、②寮生活を含む学生生活全般の主体的な生活とその振り返り、③日曜日に地域教会の礼拝等に出席しての学びを通して、クリスチャンとして神と教会、そして人と社会に仕える姿勢や実践力を養います。学生は上記の3つの取り組みに対する自己評価、および教員による他者評価を通して自己理解を深め、自らの将来像に合わせた自己形成を行います。演習形式で行います。	

教養科目	基礎演習	大学で学んでいくために必要な様々なアカデミックスキルを身につけることを目的としています。小グループに分かれ、少人数で授業を行うことで、受講生一人ひとりの状況に目を配りつつ、「受動的」な学び方から「能動的」な学び方への転換を促し、大学生として主体的に探究していくための基礎力の習得を目指します。主に読解力、要約力、レポート作成力、文章力、批判力、リサーチ力、プレゼンテーション力を養うことを目指します。演習形式で行います。	
	情報リテラシー	コンピュータスキル、情報社会、情報倫理について学びます。情報機器の基礎的な使い方、学内システムの利用など本学の学びに必要なコンピュータスキルを身につけます。次に、AIの浸透にともなう労働環境の変化、SNSを活用したコミュニティの特徴、経済活動の変化など社会状況を理解し、キリスト教世界観に基づいて情報社会を考える視点を養います。最後に、著作権、表現の自由、ソーシャルメディアの活用方法など情報倫理の学習を通して、法にしたがった適切な行動と態度の涵養を目指します。講義形式で行います。	
	キャリア教育	自己の適性を理解しながらクリスチャンとしての職業観を具体的に考察し、卒業後の進路も視野に入れた4年間の大学生活とキャリアプランを考えます。以下を三本柱とします。①職業観の考察：聖書やキリスト教の書物を通して学びます。②職業を具体的に考える：クリスチャンの職業人をお迎えして話を聞き、「働くこと」を学びます。③卒業後の進路やキャリアプラン：学生自身がもつ職業適性の自己分析や計画を試みます。講義形式で行います。	
	人文Ⅰ（文学）	C・S・ルイス作の物語を、キリスト教文学の観点から読んでいきます。各自が前もって読んできて、授業ではこれを分析的に捉え、熟考し、話し合います。そのプロセスの中で、読書の楽しみがより深いものになり、神学的な真理へのヒントにつながっていきます。物語は必然的に読み手（聞き手）を必要としているため、物語の受け取り手になることで、昔から読まれてきたこの作品もさらに生き続けられることになります。講義形式で行います。	
	人文Ⅱ（西洋思想）	各時代の思想や文化が歴史全体において、どのような文脈の中に位置づけられているか、という西洋思想の大きな流れを概観します。キリスト教は、西洋の歴史、文化と切り離して論じることはできません。西洋史におけるキリスト教の位置を確認しながら、授業では映像も取り入れつつ、現代西洋世界の直接の祖先とも言われる古代ギリシア・ローマの文化から中世、ルネサンス、宗教改革、近代に至るまでの西洋の歴史を扱います。また、プレゼンテーションなどの学生の積極的な参加も期待されます。講義形式で行います。	隔年
	人文Ⅲ（東洋思想）	東洋思想をキリスト教との出会いの歴史や、キリスト教思想との比較を通して学びます。東洋には広く現代世界に影響を与える哲学的な宗教としてのインド仏教があり、祖先崇拝を背景として人倫を説く中国の儒教が大きな影響力をもって存在します。日本には民族宗教としての神道が様々な領域に浸透し、近代の国家神道の再興を求める勢力は小さくありません。思想の坩堝のような日本において、キリスト教信仰に生きること、キリストの福音を弁証してゆくことを目指して、東洋思想を広く学びます。講義形式で行います。	
	人文Ⅳ（キリスト教倫理）	キリスト教倫理の課題の一つとして「いのち」のテーマに取り組みます。第一に、人間のいのち、特に中絶やLGBTの課題を扱います。第二に、いのちをマクロの視点からとらえ、環境倫理の課題を扱います。いずれも世界や日本の歴史の中でどう取り扱われてきたかに加え、キリスト教界における多様な見解も学びます。キリスト教の伝統を尊重しつつ、なお現代に適合するクリスチャンの倫理はいかにあるべきかを問うことがこの科目の目的です。講義形式で行います。	隔年
	人文Ⅴ（キリスト教哲学）	宗教の多元化した現代に、クリスチャンはどのように考え生きるべきでしょうか。近代社会では宗教は政教分離のもとに私的・個人的事柄として捉えられてきました。しかし21世紀はグローバルに伝統宗教の復権が見られ、宗教は私的・個人的事柄にはおさまらず、公共の場での正統的な扱いを必要としています。この科目ではこれを公共哲学の一環として特に日本に照準を合わせ、キリスト教の側からの民主主義や市民運動について学びます。講義形式で行います。	
	社会科学Ⅰ（保育学）	保育は子どもがその人らしく生き生きと、よりよく生きるために支え助ける働きです。この科目では、保育の歴史を振り返りつつ、保育の基本的原理を学んでいきます。保育の基盤としての子ども観や子どもの発達の捉え方など、具体的な事例や映像を通して、子ども理解を深めます。また、変容する社会に対して多様化する保育へのニーズや子育て支援の状況にも触れ、保育に関する全体的な理解を深めることを目指します。講義形式で行います。	

社会科学Ⅱ（女性と社会）	女性だけに限らず、男性をも含む、すべての人の社会における生き方を扱います。授業では初めに各自のライフプランを考える作業によって、女性・男性を取り巻く現代の状況の理解を深めます。その後、フェミニズム運動の発祥の地としての18世紀のヨーロッパ、その影響を受けたアメリカや日本の女性たちの歴史、さらに日本の初期女子教育、キリスト教伝道の背後にあった歴史も扱います。プレゼンテーションなど、学生の積極的な参加が期待されています。講義形式で行います。	
社会科学Ⅲ（心理学Ⅰ）	聖書の神の被造物である「人間」を、科学的・客観的に追求し理解する今日の心理学が得た知識や成果を学ぶことが本科目の目的です。前半は、現代の心理学の全体像を概観します。後半は、生涯発達論の考え方に立ちつつ、発達心理学を中心に学び、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期それぞれの発達の道筋や課題について学び、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな心理発達的特徴をクリスチャンの立場から考察します。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （4　岡村直樹　5回） 心理学の概観、生涯発達論の基礎、キリスト教と発達心理学 （19　徐有珍　5回） 発達心理学の基礎、心理発達の区分と個別の課題	オムニバス方式
社会科学Ⅳ（心理学Ⅱ）	聖書の神の被造物である「人間」を、科学的・客観的に追求し理解する今日の心理学が得た知識や成果を学ぶことが本科目の目的です。本科目では主に、臨床心理学を中心に、うつや双極性障がい、統合失調症、発達障がい等についても学びます。学生が日常で観察できることがらをなるべく多く取り上げながら授業を進め、学生自身が自らの感情の動きや、心理的健康について敏感になることを目指します。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （4　岡村直樹　5回） 臨床心理学の概観、心理的障がいの基本理解 （19　徐有珍　5回） 感情の理解、キリスト教と臨床心理学、教会と心理的ケア	オムニバス方式
社会科学Ⅴ（平和学）	学際的な視点から平和に関する様々な課題について考察します。キリスト教神学、歴史学、政治学、国際関係論などの観点から平和に関わる幅広い知識を身につけ、平和構築の様々な取り組みについて学びます。複数の教員がそれぞれの専門分野を生かしつつ講義をすることで、多角的に平和の諸課題について学びつつ、平和構築の担い手としての意識と視座の醸成を目指します。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （12　篠原基章　4回） キリスト教と平和に関する歴史的考察、聖書における戦争と平和、全体まとめ （14　森田哲也　2回） 発展途上国、特にエチオピアにおける構造的暴力、平和構築 （29　長下部穣　2回） 欧米における戦争と平和 （1　山口陽一　2回） 日本の戦争とキリスト者、非戦論	オムニバス方式、隔年
社会科学Ⅵ（言語学）	国内外の宣教の働きや実際のコミュニケーションに役立つよう、実践的な面から言語学の基礎を学びます。音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論を学んだ後、その応用として社会言語学と言語習得を学びます。言葉は人と人との関係を作り上げるもの ―― バベルの塔以来、言葉と人間関係が混乱したこの世界において、言語を用いて神の和解の働きに参与する ―― そのゴールを念頭に置きつつ、言語学は福音の働きにどう貢献できるのか、特に聖書翻訳への応用を考えていきます。講義形式で行います。	隔年

教会音楽Ⅰ（ミュージックミニストリー）	キリスト教会の中には多くの種類のミニストリー（宣教事業）が存在しますが、その一つ一つが、教会の発展と成長に密接な関わりをもっています。ミュージック・ミニストリーはその中で、礼拝において時間的にも内容的にも重要な位置を占める音楽プログラムに、そしてその音楽に関わる人材育成にも取り組みます。そのために、音楽奉仕者のマインドセット、リーダーシップ、ディサイプルシップ、コーチングならびにチームビルディングについて学びます。講義形式で行います。	
教会音楽Ⅱ（教会音楽の歴史）	今日の日本の教会における教会音楽には多様な様式・伝統・実践的挑戦的な取り組みがあり、また葛藤もあります。牧師や教会による教会音楽に対する意識や考え方にも濃淡があり、多様性も感じられます。この科目では私たちが今日教会音楽と呼ぶその分野がどのような聖書的原理と歴史的背景を持っていたかに焦点を当て、歴史を学ぶことによって見えてくる礼拝音楽・教会音楽の基礎を掴むことをねらいとします。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （6　菊池実　4回） 古代オリエント・古代ユダヤ・聖書における礼拝音楽、全体まとめ （27　宇内千晴　4回） カトリック、ルター派、カルヴァン派等諸教派の教会音楽観 （44　内藤真奈　2回） 日本の教会における教会音楽の歴史と現在	オムニバス方式、隔年
教会音楽Ⅲ（教会音楽の実際）	教会の礼拝や集会の中で、会衆は賛美の歌を歌います。この科目では賛美の歌の選曲の仕方、歌い方、歌いやすい伴奏やアレンジなどについて、学生が実際に音を出しながら体験的に学んでいきます。また、古今東西の賛美の歌にも親しみ、レパートリーを広げます。さらにグループで翻訳作業をすることによって訳詞の問題や歌詞の問題にも着目します。これらの作業を通して賛美の歌について理解を深めることをこの科目の目的とします。演習形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （6　菊池実　3回） 教会の現場における賛美の課題、牧師の心得と指導、全体まとめ （27　宇内千晴　3回） 牧師や教職者と音楽奉仕者の関係、各種賛美曲の紹介、賛美歌の翻訳 （54　山下真実　2回） 会衆賛美、日本における賛美歌集の改訂と比較 （44　内藤真奈　2回） 日本における賛美歌、聖歌などの賛美曲とワーシップソング、奏楽や歌い方に関するアドバイス	オムニバス方式、隔年
教会音楽Ⅳ（クワイア）	合唱を学ぶ通年科目です。複数回の履修が可能です。様々な時代の様式の合唱曲を詠うことで、自己と他者をより良く生かしあう“ハーモニー”の歴史をひもとき、その美しさを味わいます。本科目は授業であると同時に、「学園クワイア」として入学式、卒業式等の式典での合唱賛美や、大学が主催するコンサート等の行事に出演します。大学や地域の方々の必要に応えるべく、年間を通して継続的かつ系統的な練習を行います。実技形式（実験・実習）で行います。	
教会音楽Ⅴ（オルガンレッスン）	個人レッスンを通してパイプオルガン演奏を学ぶ通年科目です。複数回の履修が可能です。チャペルにあるパイプオルガンを使い、レッスンを通してパイプオルガンとその音楽に親しむことが目的です。レッスンでは、まずパイプオルガン構造の基礎を理解し、基本的な奏法を学びます。また、礼拝での奏楽曲の選曲の仕方、賛美歌の演奏法など、奏楽の現場で使えるものを少しずつ確実に修得し、レパートリーを増やしていきます。毎学期最後のレッスンは、原則受講生全員による公開の試演会を行います。実技形式（実験・実習）で行います。	

教会音楽Ⅵ（ピアノレッスン）	個人レッスンを通してピアノ演奏を学ぶ通年科目です。複数回の履修が可能です。レッスンでは、単に技術面の向上だけではなく、ピアノを通して神を賛美することを念頭に置きつつ、そのために必要な読譜力や表現力を身につけます。既に奏楽の奉仕に携わっている、いないに関わらず、演奏におけるより豊かな表現力を養うと同時に、礼拝や集会での会衆賛美の伴奏法、前奏曲として使用できる曲についても学びます。初歩の人は特に読譜力を身に付け、音、リズムなどを正確に弾けるようになるのが目標です。中級・上級の人は、技術のレベルアップと共に、より豊かな表現力を養うことが目標となります。実技形式（実験・実習）で行います。	
教会音楽Ⅶ（声楽レッスン）	個人レッスンを通して声楽を学ぶ通年科目です。複数回の履修が可能です。レッスンではベルカント唱法（佳い歌の意）の習得を基調とし、受講生のこれまでの歌唱体験等を鑑みて、力量にふさわしい曲を指定します。レッスンで扱う以下の項目からレベルに合わせて複数の項目を選択します。①ソルフェージュ　②イタリア・パルマメソードによる発声法　③日本語賛美歌の発語法、発声法　④イタリア古典歌曲　⑤カンタータ・オラトリオ、ソロ曲　⑥スタニスラフスキーシステムによる身体表現　⑦重唱、楽器とのアンサンブル　⑧舞台語発語法　　実技形式（実験・実習）で行います。	
教会音楽Ⅷ（ギターレッスン）	個人またはグループレッスンを通してギター演奏を学ぶ通年科目です。複数回の履修が可能です。初心者から初級、中級、上級者までのそれぞれの必要に応じたテクニックや音楽的な知識を学びます。レッスンは受講生の演奏へのアドバイスや講師とのアンサンブルを中心に進めます。その中で基礎的な演奏技術の習得と音楽の土台作りをし、レベルに応じて必要なテクニックを学んでいきます。さらに必要に応じて歌や基礎的音楽理論の学びも含むので、奏楽リーダーやソングリーダーの学びとしても有益です。実技形式（実験・実習）で行います。	
Academic Research and Writing	In this course, students will learn techniques and gain practice for reading, analyzing, and evaluating nonfiction sources and presenting the results of their inquiry in clear, organized, and carefully documented research papers. In order to do so, students will hone their grammatical, logical, and rhetorical abilities. Beyond referring to the structure of language, grammar concerns the facts of a given subject; consequently, mastering grammar entails one's ability to demonstrate a robust command of a given subject or topic. Relatedly, logic extends further than the mere science of reasoning to include one's ability to analyze, synthesize, and subsume facts (and grammar) through powers of reasoning. Rhetoric, then, denotes one's ability to communicate these subsumed facts with clarity and finesse. （和訳）ノンフィクション資料を読み、分析し、評価し、調査結果を明確かつ論理的なリサーチペーパーとして提示するための方法を学びます。そのために、テーマをしっかり扱うための文法的能力、論理的思考を用いて事実を分析・統合・包含する能力、明瞭さと技巧をもって事実を伝える修辞的能力を磨きます。以上の能力を涵養した上で、主題やトピックをより効果的に提示するプレゼンテーション能力を養うことをも目指します。授業は演習形式で行います。	
Psychology Ⅰ	Psychology I surveys major past and present issues in the field of human psychology. This course aims to help students understand human growth and development through psychological approaches to the study of emotions, notions of self, physical movement, communication, interpersonal relationships, and trust dynamics with parents/caregivers. As students examine the various stages of life, they will be challenged to consider human maturation through the lens of a biblical worldview as well as relate classroom content to relevant contemporary issues. （和訳）心理学の過去と現在の重要な課題を概観します。感情、自己の概念、身体の動き、コミュニケーション、対人関係、両親や保護者との信頼関係の構築等の研究に関する心理学的アプローチを通して、人の成長と発達について学生の理解を深めることを目的としています。人生の様々なステージについて調べることで、学生は、人間としての成熟を聖書的世界観というレンズを通して考え、同時に学びの内容を今日の課題と結びつけることに挑戦します。講義形式で行います。	隔年

Psychology Ⅱ	Psychology II surveys major past and present issues in the field of human psychology. This course focuses on understanding humans through biblical reflection and consideration of various psychological disorders such as rage, addiction, and suicidal tendencies. Case studies and presentations by students investigate the apprehension of human souls and the various approaches employed by counselors in caring for them. (和訳)心理学の過去と現在の重要な課題を概観します。憤りの感情、アルコール・ギャンブル・薬物などへの依存、自殺念慮の危険性等の様々な心理的課題について考察し、さらに聖書からの省察を通して人を理解することに重点を置きます。ケーススタディや学生のプレゼンテーションでは、人の精神的な不安とそれに対してカウンセラーが用いる様々なアプローチを扱います。講義形式で行います。	隔年
Survey of Western Philosophy	This course surveys the history of Western philosophy from the beginnings of Greek philosophy until modern times with two main objectives in view: first, to be a general introduction to the nature, problems, methods, concepts, vocabulary, and divisions of philosophy; and second, to introduce the history of Western philosophy. A broad selection of ideas about nature, the mind, and ethics are explored through various examples of philosophers throughout history. Students will learn about important philosophers such as Socrates, Plato, Aristotle, Epicurus, Plotinus, René Descartes, John Locke, and Immanuel Kant. Students will also learn distinctive characteristics of philosophical schools or trends. Among the ancients, these schools include Platonism, Aristotelianism, Epicureanism, Stoicism. Among the medievals, these include Thomism and nominalism. Among the moderns these include British empiricism, German idealism, and existentialism. Students will become familiar with basic terms and ideas used by philosophers, preparing them for further studies in philosophy and theology. (和訳)ギリシア哲学から近代までの西洋哲学を2つの観点から概観します。はじめに哲学の本質、課題、方法、概念、語彙、学派について概観し、次に西洋哲学の歴史を紹介します。自然、精神、倫理などの幅広い概念を歴史上の哲学者(ソクラテス、プラトン、アリストテレス、エピクロス、プロティヌス、ルネ・デカルト、ジョン・ロック、インマヌエル・カント等)や学派(プラトン主義、アリストテレス主義、エピキュレア主義、ストア主義、トミズム、唯名論、英国の経験主義、ドイツの理想主義、実存主義等)の多様な例を通して探索します。授業では、哲学者によって用いられている基本的用語や概念に親しみ、さらなる哲学や神学の学びへの備えとします。講義形式で行います。	隔年

Great Books Ⅰ: Western Philosophy	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on the major contributions to Western philosophy made by figures such as Plato, Aristotle, Thomas Aquinas, and John Locke. Extending from the ancient Greco-Roman era, through the medieval period, and including the Enlightenment, Western philosophy continues to shape modern patterns of thought across the world. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。古代ギリシア、ローマ時代から中世、啓蒙主義を含めて、世界の思考様式の形成に多大な影響を与えている西洋哲学への、プラトン、トマス・アクイナス、ジョン・ロックらによる主要な貢献について扱います。授業ではソクラテスの問答形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	
Great Books Ⅱ: Japanese Literature	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on major works of Japanese literature by figures such as Sōseki Natsume, Yasunari Kawabata, Yukio Mishima, and Shusaku Endō, as well as more recent authors such as Kenzaburō Ōe and Haruki Murakami. These contributions to the Japanese literary canon have gained international acclaim and offer unique cultural insight by harnessing the power of narrative. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時間、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。夏目漱石、川端康成、三島由紀夫、遠藤周作、大江健三郎、村上春樹などによる日本文学を扱います。これらの文学作品は国際的にも高く評価されており、物語の力を生かして、他にはない文化的洞察を提供しています。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	

Great Books Ⅲ: Sacred Books of the East	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on the major contributions of several world religions' sacred texts, such as the Qur'an of Islam, the Bhagavad Gita and Vedas of Hinduism, Sutras of Buddhism, and foundational texts of Confucianism and Taoism by Confucius, Lao Tzu, and Mencius. Stepping outside of the familiar realms of Judeo-Christian thought, students will have opportunities to practice attentive listening across difference and to put their worldviews in conversation with those of ancient traditions that have large followings today. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。イスラム教のコーラン、ヒンズー教のバガヴァッド・ギーターとヴェーダ、仏教の経典に加えて、孔子、孟子らによる儒教や老子らによる道教の経典など、世界の宗教の聖典を扱います。学生は、なじみのあるユダヤ・キリスト教思想の範囲を超えて、異なる思想を傾聴し、現代も多くの支持者を集めている古代思想と自らの世界観との対話を経験します。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	隔年
Great Books Ⅳ: Christian Classics	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on the major contributions to orthodox Christian theology made by figures such as Origen, Augustine, Luther, and Kierkegaard. The impact of these commentaries, treatises, letters, sermons, etc., has continued to ripple down though the ages, shaping the way the church understands the nature of its confession of faith and relation to the world. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。オリゲネス、アウグスティヌス、ルター、キルケゴールらによる正統派キリスト教神学への主要な貢献について扱います。これらの注解書、論文、手紙、説教などが与えた影響は時代を超えて広がり続け、教会が信仰告白の本質や世界との関りを理解するための道筋をつけました。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	隔年

Great Books Ⅴ: 19th & 20th Century Novels	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on major 18th-century English novels written by female authors such as Virginia Woolf, Jane Austen, George Eliot, Mary Shelley, and the Brontë sisters; Russian classics of the 19th century; and key African novels of the 20th century. These stories have provided avenues for introducing fresh sociological, psychological, and literary perspectives, and they have offered incisive commentary on the authors' complex histories and socities. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。ヴァージニア・ウルフ、ジェーン・オースティン、ジョージ・エリオット、メアリー・シェリー、ブロンテ姉妹などの18世紀の女流作家による英文学、19世紀のロシア古典、20世紀のアフリカ文学を扱います。これらの物語は、それぞれの時代において、社会学、心理学、文学への新たな視点を提供しました。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	隔年
Great Books Ⅵ: Social Sciences	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on the major contributions to the fields of sociology and economics made by figures such as Adam Smith, Max Weber, Émile Durkheim, John Maynard Keynes, Karl Polanyi, and John Kenneth Galbraith. These interrelated fields that have significantly emerged and developed in the modern era offer distinct lenses on human motivation and behavior in micro- and macro-societies. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。アダム・スミス、マックス・ウェーバー、エミール・デュルケーム、ジョン・メイナード・ケインズ、カール・ポランニー、ジョン・ケネス・ガルブレイスらによる社会学や経済学への主要な貢献について扱います。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	隔年

	Great Books Ⅶ: Natural Sciences	Expanding students' exposure to seminal literary works across time, space, and culture, this course focuses specifically on the major contributions to fields of natural sciences made by figures such as Euclid, Pascal, Galileo Galilei, Isaac Newton, Johann Wolfgang von Goethe, and Charles Darwin. Ranging from ancient Greece to nineteenth-century England, and from astronomy to botany, works like these brought drastic shifts to the ways society conceived of the world's mechanics and provided new launching points for the next generations of natural scientists to move forward. The instructor will vary the readings for each offering of this course. Students can anticipate rigorous engagement with primary source material through close reading of assigned texts and insightful question formulation. This course adopts a Socratic-style structure for in-class discussion, so all students should be prepared for thoughtful interaction with their peers and instructor regarding the material's original impact and contemporary relevance. (和訳)時代、空間、文化を超えて大きな影響力を持つ文学作品に触れることを目的とした科目です。ユークリッド、パスカル、ガリレオ、アイザック・ニュートン、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ、チャールズ・ダーウィンらによる自然科学への主要な貢献について扱います。授業ではソクラテス形式のディスカッションを行います。学生は課題となる文献を読み込み、文献が発表された当時に与えた影響と現代との関連についてよく考えた上で、他の学生や教員との議論に積極的に加わることが期待されています。演習形式で行います。	隔年
	スポーツⅠ	スポーツは人生を豊かにし、身心の両面に影響を与える世界共通の文化の一つです。スポーツを通して基礎的技術・戦術・体力に関する知識を習得すると共に、実技技能の向上を図るべく実際に競技を行います。それぞれの競技の特徴や違いにも注目します。また、チーム競技を通してチームワークも学びます。サッカー、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ソフトボール等、その年によって様々な競技を取り上げ、実技形式(実験・実習)で行います。	
	スポーツⅡ	スポーツは人生を豊かにし、身心の両面に影響を与える世界共通の文化の一つです。スポーツを通して基礎的技術・戦術・体力に関する知識を習得すると共に、実技技能の向上を図るべく実際に競技を行います。それぞれの競技の特徴や違いにも注目します。また、チーム競技を通してチームワークも学びます。サッカー、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ソフトボール等、その年によって様々な競技を取り上げ、実技形式(実験・実習)で行います。	

語学科目（現代言語）	Total English 1-A	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目はノートテイク、深いディスカッション、批判的思考、リーディングに基づくレポート作成やプレゼンテーション等アカデミックスキルを伸ばし、英語で提供される科目を履修できる力をつけます。演習形式で行います。	
	Total English 1-B	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語使用の流暢さを重視しており、年間を通じた多読活動がその鍵となります。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	
	Total English 1-C	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語に対する心理的な壁を乗り越えるため、年間を通じた多読活動に音声を活用します。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	
	Total English 2-A	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目はノートテイク、深いディスカッション、批判的思考、リーディングに基づくレポート作成やプレゼンテーション等アカデミックスキルを伸ばし、英語で提供される科目を履修できる力をつけます。演習形式で行います。	
	Total English 2-B	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語使用の流暢さを重視しており、年間を通じた多読活動がその鍵となります。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	
	Total English 2-C	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語に対する心理的な壁を乗り越えるため、年間を通じた多読活動に音声を活用します。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	
	Total English 3-A	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目はノートテイク、深いディスカッション、批判的思考、リーディングに基づくレポート作成やプレゼンテーション等アカデミックスキルを伸ばし、英語で提供される科目を履修できる力をつけます。演習形式で行います。	
	Total English 3-B	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語使用の流暢さを重視しており、年間を通じた多読活動がその鍵となります。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	
	Total English 3-C	能力別クラス編成で行う英語科目です。 (1)既習の知識を流暢に使うための活動、(2)ことばのルールや意味・構造を深く知るための活動、(3)伝えるために話す・書く活動、(4)理解のために聞く・読む活動を通してコミュニケーションを図ります。本科目は英語に対する心理的な壁を乗り越えるため、年間を通じた多読活動に音声を活用します。英語力を伸ばすとともに、学ぶためのツールとして継続的に英語を使い続ける習慣を身に着けることが目標です。演習形式で行います。	

Pre-EISA （海外英語研修準備）	EISA（海外英語研修）参加予定者がより充実した研修期間を送ることを目標とし、必要なスキルと知識を学ぶ科目です。授業では参加予定者が自らの異文化適応力について考え、グループ活動で互いに対する理解を深めながら、英語で意思疎通をはかる実践的訓練を行います。また異文化環境において外国語で生活する困難や課題、喜びや気づきについて聞き取り調査を行うこと、渡航先の文化や習慣の特徴について調査・発表することを通し、研修へのレディネスを高めます。演習形式で行います。	
EISA （海外英語研修）	夏期休暇期間中に開講される選択語学科目です。約1か月間月曜から金曜までは語学学校で英語の集中的な学びを行い、スピーキングをはじめ全てのスキルを伸ばします。週末は渡航先の歴史や文化に触れる機会から学びます。また研修中様々な背景の英語学習者・教育者と交流することで、異文化環境での相互理解を試み、その実践を通してより適応的なコミュニケーション能力を身につけます。帰国後には学びの総括として各参加者が英語でプレゼンテーションを行います。実習形式で行います。	
韓国語1（基礎）	ネイティブ・スピーカーの教員と共に、韓国語の基礎的な文法を中心に学びます。韓国語の文字であるハングル創製の歴史、構成要素と読み方・書き方から始め、挨拶や自己紹介、数字と日付の表現などの基礎文法をしっかり身につけることを目標とします。文法だけでなく、外国語教育におけるアクティブラーニングの実践として、韓国のドラマや伝統ゲームなどを通して実践的会話を覚えながら日韓の文化を比較して共に考える機会を提供します。演習形式で行います。	
韓国語2（初級）	韓国語1(基礎)に続けて、初級韓国語を学びます。可能・不可能の表現、丁寧な命令表現とぞんざいな命令の表現、「～して、～くて」という羅列の表現と理由や根拠の表現、「～けれど」「～ですが」という逆説の表現、「～なら、～れば」という仮定の表現と条件の表現、「～すれば」という条件の表現など、中級文法の基礎をしっかり身につけることを目標とします。簡単な作文練習や様々な状況における会話の練習、さらには多様な視聴覚教材を通して、韓国の文化をより幅広く理解することを目指します。演習形式で行います。	
韓国語3（中級）	韓国語2(初級)に続けて、中級韓国語を学びます。文法と会話能力をさらに深めていくことを目指します。具体的には願望と容認の表現、勧誘と禁止の表現、義務と意志の表現、形容詞を変則活用する形容詞の連体形、動詞や存在詞を連体形・未来連体形にすること、動詞と形容詞や存在詞を過去形にすることなど様々な変則活用を学びます。さらに、中級文法に基づいて、実生活で活用できる実用会話の練習機会を増やします。また、韓国に関する自由発表を通して、受講生同士で韓国の文化を紹介しながら学び合う機会を持ちます。演習形式で行います。	
中国語1 （基礎と台湾文化入門）	中国語の基礎及びその背後にある歴史や文化を、台湾の文脈で学びます。毎回の講義前半は歴史や文化等の紹介を行います。講義後半は発音の基礎や声調を学び、簡単な挨拶や自己紹介を覚えます。科目全体の目標は、中国語という語学を学ぶことが、単に語学の学びだけに終始するものではなく、その言語を使って暮らす人々の歴史や文化への入り口であることを理解し、中国語が通じる東アジア諸国との交流に関心を深めてもらうことです。講義形式で行います。	
中国語2（初級）	中国語1（基礎と台湾文化入門）に続いて初級文法を学びつつ、中国語学習において反復練習が必要な発音、声調がより安定するようにします。その上で、実践的な日常会話への応用を深めることを目指します。具体的には、教科書を活用しつつ様々な状況に応じた会話の実際を経験し、応用力を身につけ、中国人及び中国語を話す人たちとの円滑なコミュニケーションがとれるようにします。同時並行で中国語の聖書にも触れる機会を設け、中国語で賛美をし、「主の祈り」を祈れるようにします。演習形式で行います。	
Elementary Japanese Language and Culture 1	1年目の1学期に履修する科目です。聞く・読む・話す・書くの4技能を通して、日本語の基礎を学びます。基礎の学びと並行して、大学生活における実践的な日本語を学んでいきます。日本語環境にいる利点を生かして、学んだことを教室外で積極的に活用し、言語知識のみならず言語以外の知識も含めて、日本文化に対する理解を深めていくことが期待されています。平仮名・片仮名に続いて、1年次初級の段階で漢字は200語を習得します。演習形式で行います。	
Elementary Japanese Language and Culture 2	1年目の2学期に履修する科目です。聞く・読む・話す・書くの4技能を通して、日本語の基礎を学びます。基礎の学びと並行して、大学生活における実践的な日本語を学んでいきます。日本語環境にいる利点を生かして、学んだことを教室外で積極的に活用し、言語知識のみならず言語以外の知識も含めて、日本文化に対する理解を深めていくことが期待されています。平仮名・片仮名に続いて、1年次初級の段階で漢字は200語を習得します。演習形式で行います。	

Elementary Japanese Language and Culture 3	1年目の3学期に履修する科目です。聞く・読む・話す・書くの4技能を通して、日本語の基礎を学びます。基礎の学びと並行して、大学生活における実践的な日本語を学んでいきます。日本語環境にいる利点を生かして、学んだことを教室外で積極的に活用し、言語知識のみならず言語以外の知識も含めて、日本文化に対する理解を深めていくことが期待されています。平仮名・片仮名に続いて、1年次初級の段階で漢字は200語を習得します。演習形式で行います。	
Intermediate Japanese Language and Culture 1	聞く・読む・話す・書くの4技能を通して中級レベルの日本語を学ぶ1学期目の科目です。大学生活における実践的な日本語の力を身につけていきます。「主の祈り」や簡単な聖句等、クリスチャン用語も学習します。漢字は初級レベルの300語を修了した後、既習漢字の新しい音読みを含め、中級レベルの漢字を学習し、語彙を広げていきます。また日本語能力試験の勉強を開始し、2年次終了時にはN4以上に受かるよう準備していきます。演習形式で行います。	
Intermediate Japanese Language and Culture 2	聞く・読む・話す・書くの4技能を通して中級レベルの日本語を学ぶ2学期目の科目です。大学生活における実践的な日本語の力を身につけていきます。「主の祈り」や簡単な聖句等、クリスチャン用語も学習します。漢字は初級レベルの300語を修了した後、既習漢字の新しい音読みを含め、中級レベルの漢字を学習し、語彙を広げていきます。また日本語能力試験の勉強を開始し、2年次終了時にはN4以上に受かるよう準備していきます。演習形式で行います。	
Intermediate Japanese Language and Culture 3	聞く・読む・話す・書くの4技能を通して中級レベルの日本語を学ぶ3学期目の科目です。大学生活における実践的な日本語の力を身につけていきます。「主の祈り」や簡単な聖句等、クリスチャン用語も学習します。漢字は初級レベルの300語を修了した後、既習漢字の新しい音読みを含め、中級レベルの漢字を学習し、語彙を広げていきます。また日本語能力試験の勉強を開始し、2年次終了時にはN4以上に受かるよう準備していきます。演習形式で行います。	
Advanced Japanese Language and Culture 1	上級日本語学習者が語彙を広げて行く上で欠かせない漢字の学びと、日本語能力試験の準備をします。中級に続いて、既習漢字の新しい音読みを含めた中級且つ上級レベルの漢字を学び、日本語能力試験のN3以上に受かるよう準備を進めます。毎回、言語知識・読解・聴解、いずれかの模擬試験を受け、傍ら新聞や日本語の母語話者用に書かれた本を読み、習った漢字を読解において応用し、日本文化の一層の理解を深めていきます。演習形式で行います。	
Advanced Japanese Language and Culture 2	Advanced Japanese Language and Culture 1に続いて、上級日本語学習者が語彙を広げて行く上で欠かせない漢字の学びと、日本語能力試験の準備をします。中級に続いて、既習漢字の新しい音読みを含めた中級且つ上級レベルの漢字を学び、日本語能力試験のN3以上に受かるよう準備を進めます。毎回、言語知識・読解・聴解、いずれかの模擬試験を受け、傍ら新聞や日本語の母語話者用に書かれた本を読み、習った漢字を読解において応用し、日本文化の一層の理解を深めていきます。演習形式で行います。	
Advanced Japanese Language and Culture 3	Advanced Japanese Language and Culture 2に続いて、上級日本語学習者が語彙を広げて行く上で欠かせない漢字の学びと、日本語能力試験の準備をします。中級に続いて、既習漢字の新しい音読みを含めた中級且つ上級レベルの漢字を学び、日本語能力試験のN3以上に受かるよう準備を進めます。毎回、言語知識・読解・聴解、いずれかの模擬試験を受け、傍ら新聞や日本語の母語話者用に書かれた本を読み、習った漢字を読解において応用し、日本文化の一層の理解を深めていきます。演習形式で行います。	

Japanese Extensive Reading and Listening 1	High Japanese input through frequent and diverse reading and listening practice increases the fluency of students' output in speaking and writing. In this course, students will read and listen extensively to a variety of Japanese resources at levels appropriate for them (e.g., Japanese Graded Readers, picture books, novels, manga, anime books, newspapers, videos). As students accrue Japanese input, they will also be expected to share their Tadoku with others through speaking and writing exercises. Because students in this course may vary widely in their experiences of Japanese language acquisition and current abilities, each student will meet with the instructor to decide his or her personal goals for this course and beyond. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した科目です。学生のレベルに合わせて、様々なレベル別読み物、絵本、小説、漫画、アニメ本、新聞、ビデオ等日本語教材を豊富に読み、聴きます。読む量や聴く量が増えるにつれて、話したり書いたりすることを通して学んだ内容を発信する力をつけることが期待されています。学生の日本語レベルが多様であるため、担当教員と面談してそれぞれの日本語学習における目標を設定します。演習形式で行います。	
Japanese Extensive Reading and Listening 2	High Japanese input through frequent and diverse reading and listening practice increases the fluency of students' output in speaking and writing. In this course, students will read and listen extensively to a variety of Japanese resources at levels appropriate for them (e.g., Japanese Graded Readers, picture books, novels, manga, anime books, newspapers, videos). As students accrue Japanese input, they will also be expected to share their Tadoku with others through speaking and writing exercises. Because students in this course may vary widely in their experiences of Japanese language acquisition and current abilities, each student will meet with the instructor to decide his or her personal goals for this course and beyond. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した科目です。学生のレベルに合わせて、様々なレベル別読み物、絵本、小説、漫画、アニメ本、新聞、ビデオ等日本語教材を豊富に読み、聴きます。読む量や聴く量が増えるにつれて、話したり書いたりすることを通して学んだ内容を発信する力をつけることが期待されています。学生の日本語レベルが多様であるため、担当教員と面談してそれぞれの日本語学習における目標を設定します。演習形式で行います。	
Japanese Extensive Reading and Listening 3	High Japanese input through frequent and diverse reading and listening practice increases the fluency of students' output in speaking and writing. In this course, students will read and listen extensively to a variety of Japanese resources of their choice (e.g., Japanese Graded Readers, picture books, novels, manga, anime books, newspapers, videos). As students accrue Japanese input, they will also be expected to share their Tadoku with others through speaking and writing exercises. Because students in this course may vary widely in their experiences of Japanese language acquisition and current abilities, each student will meet with the instructor to decide his or her personal goals for this course and beyond. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した科目です。学生のレベルに合わせて、様々なレベル別読み物、絵本、小説、漫画、アニメ本、新聞、ビデオ等日本語教材を豊富に読み、聴きます。読む量や聴く量が増えるにつれて、話したり書いたりすることを通して学んだ内容を発信する力をつけることが期待されています。学生の日本語レベルが多様であるため、担当教員と面談してそれぞれの日本語学習における目標を設定します。演習形式で行います。	

	Mastering Kanji 1	Beyond the stage of true beginner, no two speakers of Japanese as a second language have the same experience with, or exposure to, spoken and written Japanese. This is especially true for Japanese language learners' exposure to Kanji. Therefore, this course is designed to account for the vast range of abilities that exists among Japanese learners. We will adopt an approach that will not only accommodate but also challenge every participant, whether a complete beginner or an advanced learner of the Japanese language. In the weekly sessions, the class members will acquire and hone strategies for learning and remembering Kanji; learn how to use analog and digital tools for Kanji acquisition; set personal and group goals (short-term and long-term); check and report on progress; and encourage one another in their efforts to achieve their goals. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した、漢字を学ぶ科目です。漢字圏出身でない学習者対象です。授業では、学習者のレベルに応じたやりがいと達成感を見いだせるアプローチを用いて、漢字の学び方と覚え方を身につけます。具体的には、漢字を習得するためのツール(アナログ・デジタル)の使い方を学び、個人および全体で短期・長期目標をたてて進捗を確認し、互いに励まし合って目標達成に向けて努力を積み重ねていきます。演習形式で行います。	
	Mastering Kanji 2	Beyond the stage of true beginner, no two speakers of Japanese as a second language have the same experience with, or exposure to, spoken and written Japanese. This is especially true for Japanese language learners' exposure to Kanji. Therefore, this course is designed to account for the vast range of abilities that exists among Japanese learners. We will adopt an approach that will not only accommodate but also challenge every participant, whether a complete beginner or an advanced learner of the Japanese language. In the weekly sessions, the class members will acquire and hone strategies for learning and remembering Kanji; learn how to use analog and digital tools for Kanji acquisition; set personal and group goals (short-term and long-term); check and report on progress; and encourage one another in their efforts to achieve their goals. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した、漢字を学ぶ科目です。漢字圏出身でない学習者対象です。授業では、学習者のレベルに応じたやりがいと達成感を見いだせるアプローチを用いて、漢字の学び方と覚え方を身につけます。具体的には、漢字を習得するためのツール(アナログ・デジタル)の使い方を学び、個人および全体で短期・長期目標をたてて進捗を確認し、互いに励まし合って目標達成に向けて努力を積み重ねていきます。演習形式で行います。	
	Mastering Kanji 3	Beyond the stage of true beginner, no two speakers of Japanese as a second language have the same experience with, or exposure to, spoken and written Japanese. This is especially true for Japanese language learners' exposure to Kanji. Therefore, this course is designed to account for the vast range of abilities that exists among Japanese learners. We will adopt an approach that will not only accommodate but also challenge every participant, whether a complete beginner or an advanced learner of the Japanese language. In the weekly sessions, the class members will acquire and hone strategies for learning and remembering Kanji; learn how to use analog and digital tools for Kanji acquisition; set personal and group goals (short-term and long-term); check and report on progress; and encourage one another in their efforts to achieve their goals. (和訳) 初級者から上級者まで多様なレベルの日本語学習者に対応した、漢字を学ぶ科目です。漢字圏出身でない学習者対象です。授業では、学習者のレベルに応じたやりがいと達成感を見いだせるアプローチを用いて、漢字の学び方と覚え方を身につけます。具体的には、漢字を習得するためのツール(アナログ・デジタル)の使い方を学び、個人および全体で短期・長期目標をたてて進捗を確認し、互いに励まし合って目標達成に向けて努力を積み重ねていきます。演習形式で行います。	

語学科目（聖書言語）	ヘブライ語1（文法1）	旧約聖書の主要原語であるヘブライ語の初級文法の習得を目指します。右から左へと記される文字、発音から始めて、重要な動詞活用や文体論に至るまで文法的研鑽を積み重ねて行きます。慣れ親しんできた聖書の用語の深い意味を知り、そして読めるようになる喜びや幸いの伴う学びであり、生涯の宝となる言語の習得です。次の段階である講読と聖書釈義に繋げ、そして説教者が直接原典に触れて旧約聖書からも豊かに語るための基礎作りとなる学びです。演習形式で行います。	
	ヘブライ語2（文法2）	ヘブライ語1（文法1)に続いて、旧約聖書の主要原語であるヘブライ語の初級文法の習得を目指します。右から左へと記される文字、発音から始めて、重要な動詞活用や文体論に至るまで文法的研鑽を積み重ねて行きます。慣れ親しんできた聖書の用語の深い意味を知り、そして読めるようになる喜びや幸いの伴う学びであり、生涯の宝となる言語の習得です。次の段階である講読と聖書釈義に繋げ、そして説教者が直接原典に触れて旧約聖書からも豊かに語るための基礎作りとなる学びです。演習形式で行います。	
	ヘブライ語3（文法3）	ヘブライ語2（文法2)に続いて、旧約聖書の主要原語であるヘブライ語の初級文法の習得を目指します。右から左へと記される文字、発音から始めて、重要な動詞活用や文体論に至るまで文法的研鑽を積み重ねて行きます。慣れ親しんできた聖書の用語の深い意味を知り、そして読めるようになる喜びや幸いの伴う学びであり、生涯の宝となる言語の習得です。次の段階である講読と聖書釈義に繋げ、そして説教者が直接原典に触れて旧約聖書からも豊かに語るための基礎作りとなる学びです。演習形式で行います。	
	ヘブライ語4（講読1）	ヘブライ語文法での学びを発展させて、旧約聖書のヘブライ語本文を実際に読むことに集中します。言語の学びとはいずれにおいても努力と喜びの反復が伴います。とりわけ聖書の原典言語の学びは、聖書本文に直に触れて味わう喜びや、他の人たちに分かち合う恵みに至るものです。散文から始まり、独自の話法や語法に慣れ、語彙を増やし、さらに詩文や預言書部分に入って文学類型に応じたテキストの読み方を学びます。演習形式で行います。	
	ヘブライ語5（講読2）	ヘブライ語4（講読1)に続いて、ヘブライ語文法での学びを発展させて、旧約聖書のヘブライ語本文を実際に読むことに集中します。言語の学びとはいずれにおいても努力と喜びの反復が伴います。とりわけ聖書の原典言語の学びは、聖書本文に直に触れて味わう喜びや、他の人たちに分かち合う恵みに至るものです。散文から始まり、独自の話法や語法に慣れ、語彙を増やし、さらに詩文や預言書部分に入って文学類型に応じたテキストの読み方を学びます。演習形式で行います。	
	ギリシア語1（文法1）	新約聖書の原語であるコイネーギリシア語文法の習得を目指します。当時の地中海世界で広く用いられ、旧約のギリシア語訳（七十人訳）から多大の影響を受けた言語です。その言語的文化脈と旧約聖書の背景をもって新約聖書の言葉に触れることは、邦訳聖書には訳出しきれない微妙な意味合いや歴史的背景を読み解くためには不可欠です。各品詞の基本的な語尾変化を修得して、その意味を理解することが初級文法を修得することになります。演習形式で行います。	
	ギリシア語2（文法2）	ギリシア語1（文法1)に続いて、新約聖書の原語であるコイネーギリシア語文法の習得を目指します。当時の地中海世界で広く用いられ、旧約のギリシア語訳（七十人訳）から多大の影響を受けた言語です。その言語的文化脈と旧約聖書の背景をもって新約聖書の言葉に触れることは、邦訳聖書には訳出しきれない微妙な意味合いや歴史的背景を読み解くためには不可欠です。各品詞の基本的な語尾変化を修得して、その意味を理解することが初級文法を修得することになります。演習形式で行います。	
	ギリシア語3（文法3）	ギリシア語2（文法2)に続いて、新約聖書の原語であるコイネーギリシア語文法の習得を目指します。当時の地中海世界で広く用いられ、旧約のギリシア語訳（七十人訳）から多大の影響を受けた言語です。その言語的文化脈と旧約聖書の背景をもって新約聖書の言葉に触れることは、邦訳聖書には訳出しきれない微妙な意味合いや歴史的背景を読み解くためには不可欠です。各品詞の基本的な語尾変化を修得して、その意味を理解することが初級文法を修得することになります。演習形式で行います。	
	ギリシア語4（講読1）	ギリシア語文法の学びを踏まえて新約聖書のギリシア語本文と実際に取り組みます。ヨハネ福音書から始めてパウロ書簡等の本文を共に読みます。文法の学びを土台として各自が毎回のクラスのために事前に新約聖書本文に取り組むことが望まれます。ギリシア語と日本語とはあまりにも異なるので、邦訳聖書には訳出しきれない微妙な単語の意味や構文などがあります。邦訳聖書だけでは知ることができない、聖書記者が意図するメッセージを読み取ることを目指して、辞書と文法書を駆使して本文の意味をくみ取る努力をします。演習形式で行います。	

	ギリシア語5 (講読2)	ギリシア語4 (講読1)に続いて、ギリシア語文法の学びを踏まえて新約聖書のギリシア語本文と実際に取り組みます。ヨハネ福音書から始めてパウロ書簡等の本文を共に読みます。文法の学びを土台として各自が毎回のクラスのために事前に新約聖書本文に取り組むことが望まれます。ギリシア語と日本語とはあまりにも異なるので、邦訳聖書には訳出しきれない微妙な単語の意味や構文などがあります。邦訳聖書だけでは知ることができない、聖書記者が意図するメッセージを読み取ることを目指して、辞書と文法書を駆使して本文の意味をくみ取る努力をします。演習形式で行います。	

聖書学	聖書学Ⅰ （旧約通論）	聖書の地理的背景、旧約全体の歴史的流れ、新約に繋がる神学を土台としつつ、旧約各書の理解に努めます。特に、各書の時代的社会的背景、各書の主題と概要、登場人物と主要な出来事の把握が重要となります。その段階的により旧約全体への親しみを深める時、聖書の一貫性の感覚とともに新約との連関が感じられ、現代社会へのクリスチャンの生き方もが鮮明になってくるはずです。講義形式で行います。	
	聖書学Ⅱ （福音書）	新約聖書を構成する27の文書のうち冒頭の4福音書と使徒の働きについて、概略的な内容や時代背景、学問的な議論などの基本を学びます。福音書は、ある種のイエス伝です。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの4福音書は当然、内容的に重複しますが、同時に各福音書に特徴があります。イエスの公生涯の概略を把握し、その上で各福音書の特徴を理解することを目指します。使徒の働きには、草創期のキリスト教会の歴史が記録されていますが、異邦人ルカの視点が明確に反映しています。講義形式で行います。	
	聖書学Ⅲ （モーセ五書）	モーセ五書には、創造と堕落、契約と選び、信仰による義認、律法、罪と贖い、隣人愛など聖書の主要なテーマのほぼ全てが含まれます。聖書は人の救いに焦点を当てている書です。その意味で創世記3−4章の堕罪の出来事は十戒や儀式規定理解に重要です。本科目では律法や儀式規定に焦点を当てつつ、この出来事との関係の理解を深めます。また、新約との関連、現代のクリスチャンの生活との関連にも触れつつテキストの理解を深めます。講義形式で行います。	
	聖書学Ⅳ （預言書・聖文書）	前半では、預言者の意味と記述された預言の正しい読み方を探ります。預言者の姿を歴史的に概観して真の預言者の資質を考え、過去・現在・未来と関わる預言の特質から預言書の読み方を学びます。現代のクリスチャンに投げかけるチャレンジも大事なテーマです。後半では、詩篇とヨブ記を取り上げて解釈のための適切なアプローチを探ります。両書を通して聖書全体を展望し、「信」の理解と実践における前進を目指します。講義形式で行います。	
	聖書学Ⅴ （書簡）	新約聖書を構成する27の文書のうち後半部分のパウロ書簡13通、公同書簡8通、そして黙示録について、概略的な内容や時代背景、学問的な議論などの基本を学びます。パウロは、各々の教会が抱えていた課題などを専ら取り挙げて、各教会の必要に答えて神学議論を展開したり、叱咤激励したりしています。対照的に公同書簡では、より一般的な事柄が扱われていますが、それぞれに特徴的な内容です。黙示録には独特の世界観と表現方法が反映しています。各文書の概要と特徴を把握することを目指します。講義形式で行います。	
	Biblical Studies Ⅰ: Old Testament Survey	This course aims for students to become more competent interpreters and communicators of the Old Testament by learning to: (1) articulate the over-arching narrative of the Old Testament; (2) identify and explain the purpose and message of Old Testament books and major canonical divisions in their literary and historical contexts; (3) understand and critically assess some of the central controversies concerning the Old Testament from ancient to modern times; (4) express certain hermeneutical issues surrounding the affirmation of the Old Testament as God's Word; and (5) stimulate a lifetime of Old Testament study by practicing formation of thoughtful questions and faithful approaches to solutions. (和訳) 旧約聖書を次の目標をもって学びます。①旧約聖書の全体を物語として記憶し、これを反芻して理解します。②ヘブライ語聖書の正典区分や各書の位置付けと目的を理解します。③旧約聖書の執筆とその歴史的、文学的、神学的相互関係について学びます。④古代から現代まで論争されてきた難解な箇所やテーマについて批判的に考察し理解を深めます。⑤旧約聖書を「神のことば」として読む際に起こる解釈学的な課題を理解します。講義形式で行います。	隔年

Biblical Studies Ⅱ: New Testament Survey	The twenty-seven books of the New Testament together comprise the authoritative apostolic tradition of reflection upon the decisive climax in God's redemptive plan: the historical incarnation, death, and resurrection of Jesus, followed by the outpouring of the Holy Spirit on his church. Through that very Spirit and within the particularity of their own experiences of Christian living, the various New Testament authors passed along gospel witness to instruct and guide the church. This course will explore the historical backgrounds and literary genres of these twenty-seven books toward the end of students' enriched comprehension and increased desire to continue carefully studying and effectively communicating the New Testament. (和訳) 二千年前の地中海世界の東半分で、それぞれ別個に執筆された27の諸文書が結集されて新約聖書となりました。普遍的な真理が個々の文書に記されているのではなく、当時の時代背景や文化の只中で生きた信仰者の生活が反映していますが、歴史的背景や文化が反映する仕方は文学類型によって異なります。可能な限り歴史的な背景や文学類型の特徴に留意しながら、聖書記者たちが生きた信仰生活、体験した文化、様々な試練との闘いを読み取ることを学びます。講義形式で行います。	隔年
Biblical Studies Ⅲ: Approaches to Biblical Interpretation	This course introduces students to basic biblical hermeneutics, namely, how readers from ancient to modern times have discovered historical, literary, theological, and other meanings in the Old and New Testaments. Through study of author-centered approaches, students will learn about the importance and limitations of historical knowledge and theories for making sense of biblical texts. Through study of text-centered approaches, students will learn about methods and tools for recognizing and competently interpreting various literary forms in the Bible. And through study of reader-centered approaches, students will critically consider how readers' historical and social locations, religious identities, political views, and economic circumstances can stimulate questions that open up new meanings but also inform assumptions that close off other ways of understanding the Bible. Students will be challenged to identify their own presuppositions and methods of interpretation, as well as those of their neighbors from other cultural and denominational backgrounds. (和訳) 古代から現代まで、聖書がどのように解釈されてきたか、そして現在、世界中で聖書がどのように解釈されているかについて学びます。特に、著者中心のアプローチ(聖書の執筆年代の社会的、経済的、政治的、文化的、宗教的背景についての様々な仮説に基づいた解釈)、テキスト中心のアプローチ(文学類型や文学的技巧などを特に考慮した読み方)、読者中心のアプローチ(読者の歴史的、社会的、神学的背景などを重視する解釈方法)についての批判的な理解を深めます。講義形式で行います。	隔年

	Biblical Studies Ⅳ: Topics in Biblical Theology	This course will explore one or two key biblical themes, such as the Kingdom of God, which stands at the heart of Jesus' ministry. The specific topics covered may differ from year to year, but this course will always provide a robust opportunity for students to reflect deeply on a biblical topic of high relevance to faith and practice in the contemporary world. Due attention will be paid to the specific historical setting of each biblical text examined, yet the focus will particularly be on the continuity and development of a biblical theme from the Old Testament through the intertestamental period, up to the New Testament. Students are expected to cultivate a multifaceted perspective on a biblical topic and engage constructively with some influential scholarly views on the topic. Furthermore, students will grapple with seemingly contradictory passages throughout the biblical text and hone their ability to articulate coherent biblical theology. (和訳)イエスの働きの中心にあった「神の国」のような、聖書で鍵となるテーマを扱います。年によって取り挙げるテーマは変わりますが、聖書を読んで理解する上で、そして信仰が現代世界でどのように関連するかについて学生たちが深く考える機会を提供します。個々の聖書箇所の歴史的な背景に十分に気を配りながら、旧約聖書から中間時代を経て新約聖書に一貫して見られる連続性や発展に注目します。学生は、授業で扱う聖書のテーマについて多面的な視点を養い、そのテーマに関する有力な学術的見解に建設的に取り組むことが期待されます。講義形式で行います。	隔年
	Biblical Studies Ⅴ: Selected Biblical Books	The objective of this course is to develop critical competencies in the arts of interpreting and reflecting theologically on the Christian Bible. Students will accomplish this by focusing on a selected biblical book (e.g., Exodus) or sub-set of texts within a book (e.g., the story of Abraham in the book of Genesis). In the course readings, lectures, discussions, and presentations, students will give attention to the following: problems related to the original biblical text and its translation; assumptions, aims, methods, and tools of various exegetical approaches; historical and literary contexts of interpretation; similarities and differences among various traditional and modern approaches; relationships among biblical texts (e.g., the relationship between the Old Testament account and New Testament references to it); possible relationships among biblical and non-biblical texts; similarities and differences among Jewish, Christian, and, when applicable, Muslim interpretations from early to modern times as represented in biblical translation, commentary, and retellings. (和訳)聖書の中の一つの書や物語、例えば、出エジプト記・アブラハム物語・マタイによる福音書・イエスの受難物語等に焦点を当てて聖書を精密に釈義し解釈する方法を学び、身につけることを目的とします。特に、原典や翻訳聖書の課題、様々な解釈の前提や方法論、歴史的・文学的背景、古代と現代のアプローチの相違点、聖書の他の書や外典などとの接点、ユダヤ教とキリスト教(場合によってはイスラム教)における解釈の類似点と相違点などについて扱います。講義形式で行います。	隔年
実践神学	実践神学Ⅰ (説教学)	教会教職を目指す学生を主な対象としていますが、説教の語り手も聴き手も受講して益ある内容です。説教とは何かを聖書と歴史から理解し、その固有性と多様性を把握します。その上で説教の準備の実際を具体的に学びます。聖書の釈義と解釈から聴く姿勢を養い、人の必要を知り会衆とのコミュニケーションを図る態度を大切にします。説教職への召命感、説教者と説教の聴き手の心得、現代社会の課題に対する説教者の責任なども扱います。講義形式で行います。	

	実践神学Ⅱ （メッセージの方法と実践）	様々な場面でのスピーチの力を磨くことを主眼としています。クリスチャンが明確に持つ動機・コンテンツ・対象を意識した伝達力の向上を目指す科目であり、建学の精神「実践的神学教育」の大事な部分を担います。演習者は場面に応じて備え、スピーチを行い、全員で評価を行います。各種メッセージ、結婚式司式と祝辞、葬儀司式とスピーチ、ユースの集会でのメッセージなど、効果的な方法と実践を学びます。演習形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （6　菊池実　5回） クリスチャンの「メッセージ」の土台と目的、子供たちへの伝達、教会での「証し」、教会における冠婚葬祭の司会とスピーチの実際、それぞれの演習。 （28　大嶋重徳　5回） 中高生と大学生の理解、彼らに届けるスピーチの方法と実際、それぞれの演習。	オムニバス方式
	実践神学Ⅲ （説教演習）	説教者は説教する聖書箇所を深く味わい、黙想し、自分が養われ、釈義を進めて、先人の注解にも耳を傾けます。祈りつつ、教会と社会の必要を視野に入れつつ、今日の人々への「みことば」を原稿として整えつつ、自ら聴き続ける者としても整えを受ける者、それが説教者です。本科目にはその総合的な過程を意識しつつ臨むものと考えます。具体的には、2回目の授業以降、毎回4名ほどの学生が説教し、その説教に対する学生と教員の評価を内容とします。演習形式で行います。	
	実践神学Ⅳ （礼拝学）	旧約時代・新約時代から宗教改革を経て今日に至るキリスト教会の礼拝の歴史展開や変遷を辿りつつ、本来礼拝とは何なのかを考えます。そして、礼拝の構造と順序、聖礼典(洗礼と聖餐)、教会暦について学びます。また、礼拝司会者や説教者のための発声について実践的に学びます。礼拝音楽や礼拝堂などの課題も扱います。その上で、受講者がこれからの時代の礼拝を構想することを期待します。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （2　大和昌平　9回） 礼拝の歴史、礼拝の要素と順序、聖礼典、礼拝における発声、礼拝における子供、礼拝堂 （27　宇内千晴　1回） 礼拝音楽	オムニバス方式
	実践神学Ⅴ （宣教学）	宣教学（Missiology）は学際的なアプローチを用いて教会の使命（ミッション）に関わる様々な神学的・実践的課題について考察していく神学領域です。聖書全体から宣教（ミッション）の神学的な土台について考察していきます。また、宣教思想史を概観しながら、それぞれの時代において定義されてきた宣教概念について学んでいきます。さらに、宣教論の観点から教職と信徒の使命と召命について考え、21世紀における宣教のパラダイムについて考察します。講義形式で行います。	
	実践神学Ⅵ （牧会学）	ヘンリ・ナウエン（1932-1996）が『傷ついた癒し人－苦悩する現代社会と牧会者』で現代の牧会者のあり方に投げかけた問題提起等を受けて、女性教職者を含めたこれからの牧会者像を探り求めていきます。また、超高齢社会を迎える日本において教会が地域の福祉にどのように開かれていくべきかを、キリスト教福祉の観点から、地域教会の取り組みの事例を踏まえて学びます。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （2　大和昌平　7回） 福音主義神学と霊性、信仰共同体としての教会、牧会者像 （9　井上貴詞　3回） 教会と地域福祉、事例研究	オムニバス方式
	実践神学Ⅶ （牧会カウンセリング）	福音的な聖書理解の基礎に立ちつつ、心理学、社会学などの側面から、家族を巡る諸問題を危機管理的視点から考察していきます。牧会カウンセリングがどのようなものであるか、カウンセラーとクライエントの間で問われているものは何かついて学びます。福音の共有、信仰の継承の視点に立って、家庭内暴力やいじめ、ストレス、父性の回復、嫁姑問題、離婚などについて、何が本当に問題なのかを考察していきます。ロールプレイやディスカッションを適宜取り入れながら、実際のカウンセリングに必要な糧を共に学んでいきます。講義形式で行います。	

Practical Theology Ⅰ: Introduction to Christian Ministry in Japan	Faithful theology necessarily extends far beyond mere intellectual theorizing to the practice of ministry. Every person who comes to know the triune God through Jesus receives a “call” to ministry—regardless of whether he or she works in a church context—since ministry is no more and no less than a life of service to others in imitation of Jesus. Ministry must permeate the entire life of Jesus’ followers because ministry characterized Jesus, from his youth to his cross. Thus, Christians must minister in the home, church, workplace, lives of the marginalized and suffering, and socio-political structures of the world. This course will return repeatedly to the foundational truth of Christian ministry that believers serve others not by standing over them but kneeling in humility before them, considering especially the particular contours of this service when ministering within and alongside Japanese churches to the surrounding culture. （和訳）すべてのキリスト者は宣教への「召し」を受けており、家庭、教会、職場、周縁で苦しむ人々に対し、世界の社会的政治的構造の中で仕えなければなりません。誠実な態度で神学するためには、宣教の実践への単なる知的理論化以上のものが必要です。この科目では、日本の教会で、また日本の教会と共に、周囲の文化の中で仕える際の奉仕の輪郭を考察し、信仰者たちが他者の前に謙遜にひざまづくことによって仕えるというキリスト教宣教の基本的姿勢を確認します。講義形式で行います。	隔年
Practical Theology Ⅱ: Missiology	The purpose of this course is to provide a general introduction to the discipline of missiology while establishing a foundation for mission and its practice. Reaching to the roots of mission, this course peers through biblical and theological lenses at the nature and mission of the church and surveys a historical overview of mission. With emphasis on the biblical articulation of God’s mission, students will track the concept of God’s reign from its Old Testament origin to its culmination in Jesus Christ, and to its ongoing development in the church. God has intended to bless the world since his initial creative act. Consequently, comparison between God’s desire for Israel to bless the nations and his mandate for the church to do likewise will be a key focus of this course. God’s ultimate movement to bless the world through the life, death, and resurrection of Christ will provide a framing perspective for the church’s ongoing mission. Students will also consider more recent anthropological contributions to missiology and current mission issues. （和訳）宣教学（Missiology）は学際的なアプローチを用いて教会の使命（ミッション）に関わる様々な神学的・実践的課題について考察していく神学領域です。聖書全体から宣教（ミッション）の神学的な土台について考察していきます。また、宣教思想史を概観しながら、それぞれの時代において定義されてきた宣教概念について学んでいきます。また、文化人類学の視点からキリスト教と文化の関係性についての理解を深め、それぞれの文化における宣教と教会形成の意義について考察します。講義形式で行います。	隔年

Practical Theology Ⅲ: Public Speaking: Theory and Practice	This course coaches students through development of speech organization with an emphasis on practical speech-making and delivery. Each student will organize, prepare, and present speeches serving a variety of purposes (e.g., to inspire, to demonstrate, to inform, to persuade, to accept an honor), learning how to tailor each speech's structure to suit the particular function. In addition to practicing preparation and delivery within a designated time frame, students will learn how to evaluate the speeches of others based on the speech's stated purpose and provide constructive feedback. Through this course students will be equipped for effective and confident verbal communication in their futures. (和訳)スピーチ内容の作成と実際のスピーチを指導します。授業では、様々な目的や場(動機づけを与える、実演する、情報を与える、説得する、名誉を受ける等)に即したスピーチを準備して発表します。定められた時間内にスピーチをするための準備と練習に加えて、他の人のスピーチを聞き、目的に照らして評価し建設的なフィードバックをすることを学びます。学生が将来効果的に自信をもって言語コミュニケーションができるようになることを目指します。演習形式で行います。	隔年
Practical Theology Ⅳ: Christian Ethics	This course introduces students to the principles of ethics from a biblical perspective by addressing both the theory and practice of Christian living. Since Christian moral teaching assumes and builds upon certain universal ethical affirmations, the course presents the classical cardinal virtues (i.e., justice, temperance, prudence, courage) alongside distinctly Christian virtues. Furthermore, biblical injunctions, especially the Ten Commandments, are explored as bases for Christian practice. Students will interact with various contemporary debates on the sources and norms for Christian ethics, including theories of divine command and natural law. In addition to grappling with the ideological foundations of ethics, students will apply ethical theories to specific practical topics (e.g., marriage and sexuality, business and wealth, and societal justice) from the perspectives of both biblical teaching and current positions. Through this well-rounded survey of Christian ethics, students should find themselves better equipped to think critically about faithful Christian engagement in the world. (和訳)キリスト教倫理を概観することで、この世界へのクリスチャンの誠実な関わりについて批判的に考察することを目指します。クリスチャン生活の実践と理論の両方に言及しつつ、聖書的観点からキリスト教倫理の原則を学びます。義や勇気といった古典的かつ基本的な徳目、十戒など聖書における倫理的規定を扱います。さらにキリスト教倫理の現代的かつ実践的課題を取り上げ、結婚と性、ビジネスと富などの具体的課題への倫理的原則の適用を試みます。講義形式で行います。	隔年

Practical Theology Ⅴ: Christian Education	Though encompassing diverse values, Christian education deeply influences faith formation, instrumental in processing one's roots and charting a trajectory for the future. This course examines how people, theories, and movements influenced the development of Christian education. Students will learn the practices of Christian education from ancient times, through the Middles Ages and Renaissance and Reformation, to modern times. Building on this groundwork, students will reflect on their own approaches to Christian education and investigate several avenues through a variety of projects. Though this course focuses mainly on the history of Christian education in the West, students will take different cultural backgrounds into consideration and construct flexible applications. (和訳)キリスト教教育は信仰の始まりに深くかかわり、信仰の土台作りと成長にも寄与するものです。主に西洋世界におけるキリスト教教育の歴史から、影響を与えた人物、理論、出来事を概観します。古代から、中世、ルネッサンスと宗教改革を経て現代にいたるキリスト教教育を扱います。グループ活動とプロジェクトの完成を通し、学生が各々に相応しい教育方法は何かを知り、それを発展させることが目標です。西洋の伝統のみならず、学生の文化的な背景を生かした適用が望まれます。講義形式で行います。	隔年
Practical Theology Ⅵ: Christian Apologetics: Defending Faith with Reason	This course examines the perennial question of the relation between faith and reason, a recurring issue from the beginnings of Christianity to the present day. Consequently, this course will make use of the rich resources available from great theologians of the past. The course aims both to familiarize students with various traditional Christian paradigms on faith and reason and to address important challenges to these paradigms. Accordingly, they will look at some of the most influential Christian theologians (e.g., Augustine, Aquinas, Luther, Calvin, Wesley) who have shaped both the universal church and, more specifically, Protestant and evangelical theology. Students will also examine some important issues that have shaped theology in modern times and pose new problems: for example, skepticism toward miracles and modern atheism. The opinions and problems addressed in the course relate to universal questions and long-term trends that are of enduring significance to thoughtful Christians living today. Course readings and discussion will be centered on representative original sources. (和訳)キリスト教の始まりから今日に至るまで多年にわたり議論されてきた、信仰と理性の問題を扱います。学生が信仰と理性を巡る様々な思想に触れ、自らの考えをもって応答できる素地を準備することを目的とします。世界の教会、殊にプロテスタントや福音主義に影響を与えてきた神学者たち(アウグスティヌス、トマス・アクイナス、ルター、カルヴァン、ウェスレー等)の思想や、近代神学を形成した重要思想(懐疑主義、近代無神論等)を扱います。講義形式で行います。	隔年

	Practical Theology Ⅶ: Philosophy and Theology of Music	"In the beginning was the Word" (Jn. 1:1a) and "The word of God is alive and active" (Heb. 4:12) proclaims the New Testament. If the Word is of primary importance, why should we expend our valuable time and energy making and listening to music? Furthermore, if, as comedian Steve Martin says, "Talking about music is like dancing about architecture," why should we devote ten weeks to exploring music through reading and discussion? Maintaining the importance of discovering and affirming music's role in God's design, this course aims to: (1) deepen understanding of music's God-glorifying potential; (2) draw parallels between the biblical story and the structure and social functions of music; (3) probe the history of music composed for worship as well as various philosophical and theological approaches to music; and (4) apply newfound perceptiveness toward music in personal musical endeavors. (和訳)聖書では「ことば」の重要性がしばしば強調されます。そのことを踏まえた上で、音楽が果たす役割について発見し確認することを目指します。授業では、講義に加えてディスカッションを通して以下のことを扱います。①神をたたえるために音楽が果たしうる可能性について理解を深めること ②聖書と音楽の社会的機能とを関連付けること ③礼拝のために作曲された音楽および音楽に対する神学的アプローチの歴史を精査すること ④個人的な音楽探求の中で新たに発見した音楽に対する洞察を適用すること。講義形式で行います。	隔年
組織神学・歴史神学	組織神学Ⅰ (神論・人間論・キリスト論)	神論においては「三位一体」「聖定」「創造」「摂理」等の伝統的内容を把握し、歴史的展開を概観しつつ、これらが私たちの日常にどう関係するかという、実践のレベルにまで深めていきます。続く人間論は「神のかたち」「文化命令」「堕落」「原罪」等、人間が存在することの意味や目的に関わる問題を扱います。またキリスト論はキリストの人格、その働きについて学びつつ、それが私たちの実際の生活とどう関わるかという、実践の問題にまで深めていきます。講義形式で行います。	
	組織神学Ⅱ (救済論・教会論・終末論)	救済論においては、神の聖定に基づき、キリストによって完成された救いが、聖霊を通して個々に適用されていく過程を扱います。教会論は、聖徒たちがキリストに似た者へと成長していく場としての教会について学びます。教会の理念を聖書的に確認した上で、教会政治の諸形態、聖礼典の実践等も扱います。終末論においては、世の終わりに至るまでの出来事を聖書的に整理しながら、歴史を終わりまで導く救いの計画全体を捉えることをねらいとします。講義形式で行います。	
	歴史神学Ⅰ (古代・中世)	初代教会から宗教改革までの歴史を扱います。宗教改革までを、古代教会・帝国の教会・中世の教会・宗教改革の夜明けという五つの時代に分け、各時代の重要な人物や出来事を解説します。この科目のねらいは、キリスト教の歴史を起源から学ぶことを通し、キリスト教とは何かという問いに自分なりの回答を見いだし、クリスチャンとしてのアイデンティティーを深め、自分に与えられたヴィジョンに希望をもつことができるようになることです。講義形式で行います。	
	歴史神学Ⅱ (宗教改革・近現代)	ルターに始まる宗教改革から現代の福音主義に至るキリスト教の歴史を扱います。宗教改革・17～18世紀・19世紀・20世紀・現代の五つの時代に分け、各時代における重要な人物や出来事を解説します。この科目のねらいは、宗教改革の精神と神学を理解し、近現代におけるプロテスタントの展開の中でキリスト教の本質を見極めることです。そして、歴史の中で働かれる神という思想を深め、自分に与えられたヴィジョンに確信をもつことができるようになることです。講義形式で行います。	
	歴史神学Ⅲ (旧約聖書史/考古学)	古代イスラエル史を旧約聖書の内外の史料とともに学びます。この科目では民族の黎明期から始め、特に王国時代に焦点を充てつつバビロン捕囚までを扱います。聖書の歴史はその叙述に固有の歴史観を持ちます。同時に、古代オリエントに文脈を持つ歴史です。その両面を見ながら、聖書史の方法とともに、考古学などの聖書外史料も加えた体系として学びを進めます。独自の史料の扱い方に聖書の使信を汲み取り、今日のクリスチャンの生き方や実践を考えます。講義形式で行います。	隔年
	歴史神学Ⅳ (第二神殿時代史/考古学)	捕囚期から紀元後1世紀までのイスラエルの地における歴史を学びます。古代イスラエルの理解には、捕囚を挟む「第一神殿時代」と「第二神殿時代」という捉え方が大切な視点となります。捕囚への反省から生じた保守化の一方で、ヘレニズムとそれに続くローマの到来があってユダヤ人社会は葛藤と苦悩を経験しました。それらが新約聖書の直接の背景となります。聖書外の文献や考古学も援用しつつ、このダイナミックな時代史を学びます。講義形式で行います。	隔年

歴史神学V （信条学）	神学諸科における信条学の位置づけと意味づけを考えることから始まり、次に聖書と信仰告白、教義と信仰告白、教義学と信仰告白の関係を考察・整理します。さらに、教会が歴史の中で生み出してきた諸信仰告白文書のうち、古代、宗教改革、現代の代表的なテキストを取り上げて、それらを歴史的・文法的な分析を加えつつ読み進め、今日の教会形成と福音宣教における「信仰告白」の意義について考えます。ニカイア信条、使徒信条、アウグスブルク信仰告白、ハイデルベルク信仰問答、第二スイス信仰告白、バルメン宣言、アマスフォールト提題等を扱います。講義形式で行います。	
歴史神学VI （日本キリスト教通史）	16・17世紀のキリシタン史と近代のプロテスタント史を中心に景教伝来の可能性や近代のカトリックとハリストス正教会も含む日本キリスト教史の通史を扱います。幕藩体制期の禁教政策をふまえてプロテスタント史を考察し、アジア太平洋戦争期から戦後までを扱います。聖書翻訳や讃美歌、神学、戦争、社会事業などにも触れつつ、日本におけるキリスト教の宣教や教会形成、社会への貢献を扱います。日本史の基本的な知識が必要です。講義形式で行います。	
Christian History and Tradition Ⅰ: Ancient and Medieval Church History	This course is designed to introduce students to the history of Christianity from antiquity to the late Middle Ages, acquainting them with historical and theological developments involving key figures, movements, and doctrines of the period. For instance, students will learn about major controversies faced by the early church, such as Gnosticism and Arianism; influential figures, such as Augustine and Thomas Aquinas; and causes and effects of major shifts, such as the rise of Christian emperors, the growth of monasticism, and the beginnings of medieval universities. Proceeding chronologically with a focus on Eastern and Western Christianity, this course also recognizes the global spread of Christianity. Many of the events and ideas discussed in this class continue to have direct relevance for modern Christianity, including church-state relations, university education, and debates about the nature of Jesus Christ. Accordingly, this course provides students with tools to think critically about such topics. （和訳）古代から中世後期までのキリスト教史の歴史的、神学的発展を学びます。西方・東方を共に視野に入れながら、初期の教会が直面した論争（グノーシス主義、アリウス主義）、重要人物（アウグスティヌス、トマス・アクイナス）、古代から中世への転換期の動向（クリスチャン皇帝の出現、修道院、中世の大学）、キリスト教の広がり等を扱いますが、これらが今日の諸課題にも関連性を持つことを明らかにしつつ、批判的考察力を涵養していきます。講義形式で行います。	隔年

Christian History and Tradition Ⅱ: The Reformation and Modern Church History	This course is designed to introduce students to the history of Christianity from the Reformation to the present, acquainting them with historical and theological developments involving key figures, movements, and doctrines of the period. Some of the major phenomena covered during this course are the sixteenth-century Protestant Reformation, the response of the Catholic Counter-Reformation, Puritanism, the institutionalization of the Reformation in Protestant orthodoxy, the transplantation of European Christianity to the New World (America), and post-Enlightenment theology. Through critical engagement with the past, students will gain resources for perceptive engagement with a contemporary church acutely impacted by the legacy of the Reformation and later shifts, such as the rise of various Protestant denominations (Baptist, Methodist, etc.), and contributions of the Enlightenment (modern science, biblical criticism, etc.) that have influenced all Christian traditions. Understanding when and where patterns of thought begin, as well as their subsequent development, will better equip students to evaluate their own beliefs and to understand contemporary Christianity. （和訳）宗教改革から現在に至るキリスト教史の展開を追いつつ、特に16世紀の宗教改革、カトリックによる対抗宗教改革、ピューリタン運動、キリスト教正統主義、ヨーロッパから新大陸アメリカへの進展、プロテスタント各教派の発展、啓蒙主義後の神学等を扱います。これらが現代の教会にどのような影響を与え、どのような結果がもたらされたかを理解することをとおして、自らの信仰を評価し、なおかつ現代のキリスト教を理解することがこの科目の目的です。講義形式で行います。	隔年
Christian History and Tradition Ⅲ: The Heidelberg Catechism	This course on the Heidelberg Catechism explores the history and theology of the Heidelberg Catechism in order to understand its relevance for spiritual life and ministry today. Coursework mainly consists of lecture and discussion. After the instructor introduces students to the history and theology of the Heidelberg Catechism, students will begin reading and discussing each question and answer throughout the text of the Heidelberg Catechism. Each student is required to prepare a short written response to the assigned set(s) of questions and answers in preparation for every class. In addition, each student will write a paper on an assigned section of the Heidelberg Catechism. （和訳）宗教改革期における代表的文書の一つ「ハイデルベルク信仰問答」の歴史と神学への理解を深めながら、今日の霊的生活とミニストリーにおける有効性を問うことを目的としています。授業では、講義とディスカッションを中心に進められ、学生は毎回の授業に際し、所定の信仰問答の箇所をあらかじめ読んで考察し、質問やコメントを準備してくることが求められます。加えて、割り当てられた問答の箇所に関する研究レポートの提出も必須となります。講義形式で行います。	隔年

Christian History and Tradition Ⅳ: Science and Religion	This course provides students with a broad historical overview of the relationship between science and religion and the philosophical and theological issues surrounding their interaction. The course covers different periods in the history of interaction between science and religion, from how the early church fathers saw the relationship between Christianity and the natural world, to the influence of Aristotelianism in the high middle ages, to the mechanical philosophy of the seventeenth century, to Isaac Newton, to the rise of William Paley's "Natural Theology," to the development of the theory of evolution and Charles Darwin, and finally to more contemporary debates and discussions. By the end of this course, students will be able to reach an understanding of the richness of the interaction (positive and negative) between science and religion, have a sense of where they might stand in this discussion, and be able to articulate some of the strengths and weaknesses of the different positions regarding the relationship between science and religion. (和訳)科学と宗教、哲学的課題と神学的課題の関係について広く歴史的視点から概観します。キリスト教と自然世界の関係に対する教父の視点、中世のアリストテレス主義の影響、17世紀の機械論的哲学、ニュートン、進化論とダーウィンの展開、さらに現代における議論に至るまでの、科学と宗教の相互作用の歴史を扱います。科学と宗教の相互作用(肯定的・否定的)の豊かさについて理解し、科学と宗教の関係に関する異なる見解の長所と短所について明確に述べることができるようになることを目指します。講義形式で行います。	隔年
Christian History and Tradition Ⅴ: Systematic Theology	This course on Systematic Theology is an in-depth study of Alister McGrath's Scientific Theology project. McGrath's scientific theology can be seen as a project on the "relation of Christian theology and the natural sciences" or "a full blown work on theological methodology," but it is most of all "a defense of the entire theological enterprise," where "Christian theology is argued to be a distinct legitimate intellectual discipline in its own right, with its own sense of identity and purpose, linked with an appreciation of its own limitations and distinctive emphases within the human quest for wisdom as a whole" (McGrath, The Science of God, ix-x). This course will help students 1) develop an appreciation for, and an understanding of, how a theological method is put together; 2) understand the opportunities and risks involved in drawing intellectual resources from outside the Christian tradition in the development of a Christian theological system; and 3) explore the legitimacy of Christian theology in the market place of other ideologies and systems—especially those that are purely naturalistic, materialistic, or nihilistic. Using McGrath's The Science of God as the primary text, this course will be broken down into three major themes—Nature, Reality, and Theory—with each theme covered over three weeks. (和訳)主にアリスター・マクグラスの科学的神学から、科学と宗教についての学びを深めます。同神学の主要な意図は、神学が正当な知的学問であることを示しつつ、「神学的企て全体の擁護」を目指すものです。学生は、「自然」「現実」「論理」の主題を扱いながら①神学的方法の統合、②キリスト教外の知的資源を用いることの意義と危険性、③自然主義、唯物論、虚無主義等の他の思想領域におけるキリスト教神学の正当性を探求することが求められます。講義形式で行います。	隔年

	Christian History and Tradition Ⅵ: Japanese Church History	This course surveys Japanese church history, broadly divided into the early Roman Catholic movement in 16-17th century and Protestantism in Japan in 19-20th century. Focused topics include the mission work of Francis Xavier; the persecutions of the sixteenth and seventeenth centuries; the underground Christian activities during the Edo Period; the opening of Japan to Christian missions in the nineteenth century; the clash of education and religion in the Meiji Period; the production of the Japanese Bible and hymnals; the modern Christian social movements (pre-WWII); the church's relationship to Japan's war effort and State Shinto; and the new religious liberties following WWII. More than learning a detailed account of church organizations, the chief goal of this course is for students to understand the relation between Japanese culture and Christianity with informed maturity. （和訳）16～17世紀のローマ・カトリックと19～20世紀のプロテスタントについて、日本キリスト教史を概観します。史料にふれながら、日本の文化とキリスト教の関係について考察し、理解することを目標とします。フランシスコ・ザビエルの宣教、キリシタン信仰への迫害と潜伏キリシタン、開国とプロテスタントの宣教、明治の教育と宗教の衝突、聖書翻訳と賛美歌、キリスト教と慈善・社会運動、戦争・国家神道とキリスト教会、民主主義と信教の自由などを扱います。留学生は自国と日本の事例の比較からキリスト教史の普遍性と個別性を学びます。講義形式で行います。	隔年

ユース・スタディーズ	ユース・ミニストリーⅠ （神学と実践）	福音的な聖書理解と神学の基礎に立ちつつ、牧会学、教育学、心理学、社会学等の多様な側面から、現代のユース（主に日本の小学校高学年から高校生）と彼らへのミニストリーについて考えます。学生はまず「ユース」と「ミニストリー」というそれぞれの言葉の意味について学修し、対象者が誰であるか、それが具体的にどのような働きなのかを知るところから学びを始め、そしてユース・ミニストリーの全体像を概観します。講義形式で行います。	
	ユース・ミニストリーⅡ （思春期の理解）	思春期の若者が、どのような心理発達の過程を歩み、また様々な若者文化の体験から何を学ぶのか、そしてどのように成長していくのかについて、福音主義神学の観点から、心理学、社会学の知見を用いつつ学びます。同年代のユース同士の関係性が、思春期において非常に重要な役割を果たす事は、社会学や心理学分野の研究を通して周知の事実となっていますが、若い信仰者を育むグループ形成のあり方や、相互ケアのあり方についても学びます。講義形式で行います。	
	キリスト教教育Ⅰ （神学と理念）	福音的な聖書理解に立ちつつ「教育」に関する聖書の言葉から学びます。また組織神学の中で「教育」がどう位置付けられるかについて、ミラード・エリクソン著の「キリスト教神学」を用いて確認し、キリスト教にとっての教育の果たすべき役割について学修します。さらに聖書やキリスト教史の中で用いられてきた様々な教育の方法論に関する理解を深めつつ、ユダヤ教育で用いられるハブルータという方法を用いての神学的議論や、アクティブラーニングの実践を通して学びます。講義形式で行います。	
	キリスト教教育Ⅱ （方法と実践）	様々な教育の現場で必要となる、より実践的な知識やスキルについて考察します。具体的には、「学習と動機付け」「カリキュラムの作成」「集団心理」「生徒理解」「教師のありかた」といったトピックを取り扱います。また授業の後半では、聖書的なアクティブラーニングの方法である物語を用いる「ナラティブ・メソッド」に注目し、物語り朗読会や、ナラティブ・プレゼンテーション等の機会を持ちます。講義形式で行います。	
キリスト教福祉	キリスト教福祉Ⅰ （人間の尊厳と自立）	「人間の尊厳」という人間の基本的原理、根拠となる考えと、「自立」とは何かという自立の基本的な考えを学びます。「人間としての尊厳」とは、人間が社会において個人として「ありのままでその人らしく」尊重されることです。したがって、人間の尊厳という理念は至高で普遍的であり介護における最も尊重される根拠となるものです。また、人間の自立とは、人間の尊厳に内包したものですから、この二つが理解されることで人間の利己心を克服し、共生社会が可能となります。これらを生活の場面で実現するため、常に現実的、個別的に理解し、実現できるように学びを進めていきます。講義形式で行います。	
	キリスト教福祉Ⅱ （人間関係とコミュニケーション）	生活場面における対人支援の基礎となる人間関係形成と基本的なコミュニケーション能力の習得を目的として、3つの領域と実際的技法を学びます。対人援助実践の入り口は、自己と対象者との関係づくりから始まります。まずは、関係づくりのため人が構成している認知世界についての考察を深めます。次に、人の発達や身近な人間関係から実際的な人間関係の形成を考えます。そして最後に、コミュニケーションの定義と多様性や役割の理解を目指します。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （8　中澤秀一　5回） コミュニケーションの基本、自己覚知、記録の技術、報告・連絡・相談、会議・議事進行・説明 （16　菅野綾　5回） 利用者の心の痛み、利用者の気持ちを聴く、心を伝える、障がいの状況・状態に応じた技法、チームにおけるコミュニケーション	オムニバス方式
	キリスト教福祉Ⅲ （社会福祉論）	介護福祉の「福祉」の部分とは、まさに人の生活の全体性や社会性に着目して利用者のwell－beingを促進していくものであり、社会福祉理論や援助技術から学んできたものです。そのため、社会福祉が持つ意味や思想、制度と歴史について概観し、今日取り組むべき焦点となる地域福祉についての理解を深め、社会保障・社会福祉制度の根幹についての理解と知識も体得します。少子高齢化と国際化が進む中で「老いること」「障がいを負うこと」「弱さを担うこと」「共に生きること」をキリスト者の視点から考え、分かち合い、福祉・共生社会を創造する指針を見出します。講義形式で行います。	

キリスト教福祉Ⅳ （キリスト教公共福祉論）	キリスト教はその長い歴史を通して修道院、国民教会、教区教会を通して今日の福祉の先駆的働きをしてきました。そしてこれは宣教の働きの一環としてなされてきたということを学びます。今日では福祉は国家や行政の仕事と思いがちですが、それをキリスト教の宣教の働きとして取り戻していくために、高齢者、障がい者、児童等の各部門での福祉のあり方を理解し、地域教会の役割について考えます。公共哲学に立脚した「公共福祉論」の基本とディアコニア論、ソーシャルワーク・介護、ケア・チャーチミニストリーの実践と神学（地域に開かれたソーシャルキャピタルとしての教会）を探求します。ディスカッション等を取り入れ、学生が主体的に問題意識をもって学びあい、教職を志す者も信徒もそれぞれの召しと賜物とポジショニングから協働できる宣教の在り方も展望します。講義形式で行います。	
キリスト教福祉Ⅴ （介護福祉）	介護実践は、介護利用者を「生活する人」として受けとめ、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることが必要です。そのため、この授業では利用者の尊厳を守り自立に向けた介護についての理解を深めることやケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメントや介護従事者の健康管理などについて学びます。さらに、他領域との関連から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることができるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などについて検討できる素養を身につけます。講義形式で行います。	
キリスト教福祉Ⅵ （こころとからだのしくみ）	こころの仕組みとこころの健康、身体の神経、骨格、関節、筋肉、内臓の仕組みと働きなどについて学びます。介護される側の立場を理解し、質の高い介護福祉支援を行なうためには、人間の生理システム、運動システム、精神システムに関する知識を学ぶ必要があります。それらの知識が実践で活用され、加齢や疾患により起こる生活障がいに対して生活支援が可能となります。また、生活支援を実施する際の理論的根拠づけとしての知識となり、社会に出たとき、あるいは福祉実践の場に出た時、なぜ今この人にこの支援が必要なのか、どのような気持ちでいるのかなど考えることへとつなげていくことが可能となるものです。 講義形式で行います。	
キリスト教福祉Ⅶ （生活支援技術）	私たちは日々何気なく生きていても、きちんと生活が成り立っていますが、それは自分のことは自分で考え実行できる能力があるからです。しかしさまざまな理由で自立が困難になり生活が立ちゆかなくなった高齢者や障がい者がいます。そこで、生活とは何か、支援とはどういうことか、介護の基本的原理・原則を理解し、アセスメント能力を養うこと、基礎的な技術を習得することを目指します。具体的な項目としては入浴、排せつ、食事、身じたく、清潔の生活支援、睡眠、移動・移乗などの生活支援及び聴覚障がい害者支援（手話）について学びます。講義および演習形式で行います。	
キリスト教福祉Ⅷ （介護過程）	私たちは、日常生活でさまざまな問題を意識することなく解決しています。しかし頭の中は、常に情報収集しながらそれを分析し、解決案を考えるという過程を繰り返しています。専門的対人援助には、思い付きではなく科学的根拠をもった援助が必要ですが、その中身が介護における問題解決の思考過程です。この科目では、自分自身や事例を通して対人援助における問題解決の思考過程を習得していきます。したがって、この思考方法を繰り返すことで、対人支援において科学的・論理的対応ができるようになります。講義形式で行います。	
キリスト教福祉Ⅸ （障がいの理解）	介護専門職が現場で直面する障がい者が持つ障がい、それに伴う生活や社会環境についての理解を深め、それぞれの障がいに即した介護実践の有り方を理解することをねらいとします。障がい者福祉の基本理念と法体系、福祉制度の関連についての概略を学びます。また、個々の具体的な障がいについてハビリテーション医学の観点からの特徴、また心理、生活上の課題について理解し、障がいに応じた介護実践の留意点を押さえ、現場で直面する課題について具体的に考え、その解決策について理解を深めます。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （9　井上貴詞　6回） 障がいの概念と障がい者福祉の基本理念、障がい者福祉の関連制度、障がいのある人の心理、知的障がい、高次機能障がい、発達障がい、地域の連携と協働、家族支援 （50　マクドエル綾子　4回） 運動機能障がい、視覚障がい、聴覚・言語障がい、重複障がい、内部障がい、重症心身障がい、難病	オムニバス方式

	キリスト教福祉X （精神保健福祉論）	精神障がい者の生活を多面的に知り、身近なところにある現実としてイメージできるようになることを目指します。その上で、精神障がい者、当事者の生活のしづらさと力を学び、それらに対する支援の実際や課題を学びます。また「障がい」の捉え方の変遷を学び、教会や社会で支援に携わる、また「ともに生きる」上で基礎となる考え方を検討し、具体的なソーシャルスキルトレーニングなどのアプローチ、連携のスキルなどを習得します。また、対人支援職のバーンアウト防止のためのストレスマネジメント、さらに関連領域である認知症の理解と支援も学びます。講義形式で行います。	隔年
グローバル・スタディーズ	グローバル・スタディーズⅠ （異文化理解）	グローバル化した現代において異文化理解は必須の学びです。また、広い意味において、自分以外の他者は異文化だともいえます。異文化理解は文化を超えたコミュニケーションに必要なだけでなく、自分以外の他者と健全な人間関係を築いていくために必要なスキルでもあります。この科目では異文化理解に関する基本的な知識と姿勢について学びます。また、神学的な視点から異文化理解（他者理解）の意義について考察します。講義形式で行います。	
	グローバル・スタディーズⅡ （グローバル・スタディーズ入門）	15世紀以降のグローバル化の歴史を概観し、その特徴や課題について批判的に探究することを目的とします。特に国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」が扱う5つの主要テーマである「貧困/格差と健康（People）」、「経済的豊かさ(Prosperity)」、「地球と自然環境(Planet)」、「平和(Peace)」、「パートナーシップ(Partnership)」について議論します。そして、これらのテーマについて国際政治学、経済学、社会学的視点のみならず、聖書、神学、教会論、宣教論の視点からも理解することを目指します。講義形式で行います。	
	グローバル・スタディーズⅢ （地域文化論：日本） Global Studies Ⅲ: Japanese Arts and Aesthetics	In this course, students will explore Japanese cultural influence around the world through surveying the history of Japanese visual arts and aesthetics; viewing historical and contemporary works of visual and performing arts (e.g., cinema, anime, and tea ceremony); and reading and discussing together classic expressions of Japanese aesthetic sensibilities (e.g., Inazo Nitobe's Bushido, Kanzo Uchimura's Representative Men of Japan). Pertaining to contemporary developments, students will contemplate the religious mind of modern Japan's youth by examining Japanese animation and manga. This course includes an optional field trip to a national museum (e.g., Tokyo National Museum, National Museum of Japanese History, the Ghibli Museum) and a traditional tea ceremony at the on-campus Kyoritsu-an (tea room) located in the Faith and Culture Center. （和訳）日本の視覚芸術作品を取り上げて、クリスチャンの視点から日本文化を学びます。日本の映画やアニメーションを共に鑑賞し、留学生とも作品の感想や意見を交わします。また、新渡戸稲造の『武士道』や内村鑑三の『代表的日本人』などの日本文化を論じた古典的な作品を一冊講読し、日本文化の特質は何か、それをクリスチャンとしてどう評価するのかを共に考えます。この科目は日英両語で提供されます。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （2　大和昌平　7回） 日本映画、「武士道」、仏像、琳派、東京国立博物館、茶道 （43　辻中保美　3回） 日本のアニメーション	オムニバス方式
	グローバル・スタディーズⅣ （地域文化論：韓国）	韓国に関する幅広い学びを通して、日韓両国の文化理解や文化交流の在り方について考えていきます。学生は文化的対比の中で日本文化を捉え直しつつ、異文化理解の大切さを確認します。各種文献に加え、映像資料や音楽等のメディアも適宜利用しながら、韓国の歴史・政治・経済・文化等、韓国社会に対する体系的理解を深めます。日韓文化交流に参加する学生の意欲と積極的な態度を促し、学生が韓国に関する総合的な知識と国際的感覚を身につけることを目標とします。講義形式で行います。	

グローバル・スタディーズⅤ （文化人類学と宣教）	文化人類学に関する基本的な理解を踏まえつつ、様々な宣教学的課題について考察する力を養います。まず、文化人類学の基礎を学び、文化を分析・考察する力を育みます。また、文化人類学の視点から、キリスト教信仰と教会形成について考察します。特に日本文化とキリスト教の関わりに焦点を合わせ、これまでの様々な取り組みについて学びます。これらの一連の学びを通し、文化とキリスト教の関わりについて考察する基礎力の習得を目指します。講義形式で行います。	
グローバル・スタディーズⅥ （国際協力論）	世界の貧困と開発援助について国際開発論と聖書的観点から考察します。前半は、発展途上国の貧困の実情を概観し、「貧困」と「開発」の定義について開発学と聖書的観点から理解を深めます。事例として、政府間援助、国際協力NGO、社会的企業等を扱い、それらの貢献と共に、現場で直面する課題についても批判的に分析します。後半は、貧困に直面する人々にとっての正義や、人と社会に必要な包括的変革について考え、キリスト者としての適用を議論します。講義形式で行います。	隔年
グローバル・スタディーズⅦ （リーダーシップと 組織マネジメント）	組織のマネージメントとリーダーシップについて経営学的な基礎理論を理解し、社会のあらゆる組織で求められる視点やスキルを、「信徒と仕事の神学」を基盤として身につけることをこの科目のねらいとします。特に、社会・経済の担い手である第1セクター（公共部門）、第2セクター（民間部門）、第3セクター（非営利部門）それぞれの部門における組織運営上の課題を扱います。また、各部門の経営実務家を招き、ケーススタディを通じて実践的な学びをします。講義形式で行います。	
グローバル・スタディーズⅧ （日本語教育）	言葉は文化の一部であるという社会言語学的見地から日本語教育について学びます。この科目のゴールは「学習者中心」のteachingです。① 教師はあくまでも学ぶ側を助ける存在であり、② 教育は学習者の全人格に関わる。この認識のもと、（A）教えること、（B）言語を教えること、そして（C）日本語教育と序々にフォーカスしながら、上記の「学習者中心」のコンセプトを考えます。また日本語の特徴を学び、生きた日本語を教えるとはどういうことか、「学習者中心」の観点から考えます。講義形式で行います。	隔年
グローバル・スタディーズⅨ (地域文化論：アフリカ) Global Studies Ⅸ: Introduction to African Culture	This course introduces students to Africa's varied and complex history, cultures, and society, examining how a range of people (including students, children, women, and others) organize their lives, respond to daily challenges, and interact with the outside world. Engaging different informational sources such as films, literary texts, and websites will encourage students' keen observation and critical analysis. Interviews with, and presentations by, students from Africa and a field trip to an African community in Japan will provide opportunities for participatory relational learning. （和訳）アフリカ大陸における多様で複雑な歴史、文化、社会について理解を深めることをねらいとします。特にアフリカの人々の日常生活と、そこで直面する課題を取り扱います。映画・書籍・ウェブサイト等の媒体から得られるアフリカについての情報を批判的に分析する力を養います。また、アフリカ出身学生へのインタビューやプレゼン、在日アフリカ人コミュニティへのフィールド調査等を通して、アフリカについての学びをより実践的なものとします。この科目は日英両語で提供されます。講義形式で行います。 （オムニバス方式／全10回） （14　森田哲也　5回） 主に扱うテーマ：アフリカの歴史とキリスト教について考え方/ペンテコステ教会の潮流とエチオピアにおけるその文化的影響について （20　バビリエ・レベッカ　5回） 主に扱うテーマ：アフリカにおける近代化、キリスト教、文化/日本におけるアフリカ人コミュニティ/ウガンダにおけるキリスト教（文化とジェンダーを中心に）	オムニバス方式、 隔年

Global Studies Ⅰ: Intercultural Communication	In an increasingly globalized world, developing adaptability and competence in cross-cultural communication is not simply relevant but crucial. This course aims to introduce the fundamental concepts, variables, attitudes, and skills in cross-cultural connumication necessary for developing healthy intercultural relationships. In addition, students will learn cultural patterns that facilitate understanding of both students' own cultures' and other cultures' methods of communication. Special emphasis will be given to intercultural communication in the Japanese context, also helping students adjust to life in Japan. (和訳)異文化理解に関する基本的な知識と態度について学び、身近な異文化をキリスト教世界観の枠組みにおいて考察する力を養います。「文化とは何か」という基本的な概念からはじめ、異文化摩擦のメカニズム、長期間異文化に滞在する際のストレスとその対処方法、日本文化の特質等についての理解を深めていきます。また、神学的な視点から異文化理解(他者理解)の意義について考察し、キリスト教世界観の枠組みにおいて文化的な様々な問題を考察する力を身につけます。講義形式で行います。	
Global Studies Ⅱ: Introduction to Global Studies	This course begins by exploring the nature of global studies as an academic discipline and its relevance in light of historical globalizing trends from the fifteenth century onward. Next, students will examine selected global domains (e.g., education, human rights, government, economics, environment, culture) through the framework of the U.N.'s Sustainable Development Goals (SDGs), while assessing them in light of five primary themes: People, Prosperity, Planet, Peace and Partnership. In addition to employing social-scientific perspectives, this course will consider globalization through biblical, theological, ecclesiological, and missiological lenses. (和訳)学問領域としてのグローバル・スタディーズについて、また15世紀以降のグローバル化の流れとの関連を学びます。グローバル化を、政治学、経済学、社会学等の社会科学の観点から概観しつつ、同時に聖書的、神学的、教会論的、宣教学的視点から考えます。グローバルな領域(教育、人権、政府、経済、環境、文化等)について、国連の持続可能な開発目標(SDGs)」の主要な5つのテーマ(人、経済的豊かさ、地球と自然環境、平和、パートナーシップ)に照らして扱います。講義形式で行います。 (オムニバス方式／全10回) (7 ショート・ランドル 5回) グローバル化の歴史、経済的豊かさ、地球と自然環境、パートナーシップ (20 バビリエ・レベッカ 5回) グローバル・スタディーズの動向、貧困/格差・健康、平和と紛争	オムニバス方式

Global Studies Ⅳ: TESOL	This course will introduce students to the fundamental principles and practices of Teaching English as a Second Language (TESOL), relevant to teaching English to children as well as adult learners. Students will be challenged to reflect on their assumptions surrounding teaching and learning English, and to develop more conscious teaching approaches based on contemporary research. Although the class seeks to be practical by focusing on teaching methods and practices, careful attention will also be given to theoretical aspects of language teaching. This course is divided into four parts: first, examining common beliefs about teaching and learning; second, surveying the history of language teaching (theory and practice); third, exploring contemporary teaching methods and practices (including students' development of lesson plans, presentation of demonstration lessons, and reflection on their own and their classmates' lessons); and fourth, writing individual teaching philosophy statements that reflect careful analysis and application of the knowledge and material covered during the course. (和訳)英語教育学の理論と実践の基礎を学ぶ科目です。学生が自らの英語教育観に気づき、近年の研究知見に触れ、外国語として英語を学ぶ児童から成人までにどのように教えるか(TESOL)を理解し実践することが目標です。授業において英語教育に関する一般常識、語学教育の歴史(理論と実践)、授業計画など教師の基礎スキルを含む教育方法を学び、学んだことを反映した自らの教育哲学を文章化することが求められます。講義形式で行います。	隔年
Global Studies Ⅴ: International Development	This course introduces basic concepts of poverty and development from a biblical perspective. First, while critically examining the nature of poverty and existing perceptions of global Christian charity, this course focuses on neocolonial power mechanisms and paternalism in development aid. In addition, students will deepen their biblical understanding of human flourishing, social entrepreneurship, justice for the poor, and the important role of the church to bring eternal solutions to broken human nature through the transformative power of the gospel. This course will also address some key biblical concepts and practical strategies for promoting global Christian partnerships in conjunction with entrepreneurial solutions to poverty. (和訳)世界の貧困と開発援助について国際開発論と聖書的観点から考察します。前半は、発展途上国の貧困の実情を概観し、「貧困」と「開発」の定義について開発学と聖書的観点から理解を深めます。事例として、政府間援助、国際協力NGO、社会的企業等を扱い、それらの貢献と共に、現場で直面する課題についても批判的に分析します。後半は、貧困に直面する人々にとっての正義や、人と社会に必要な包括的変革について考え、キリスト者としての適用を議論します。講義形式で行います。	隔年

Global Studies Ⅵ: Religion and Public Policy	While some defend the “secularization theory” of modern societies based on generally declining church attendance, others assert that religion is still deeply rooted in people’s moral and political lives. Moreover, some contemporary social theorists who previously contended that religion does more bad than good for democracy now maintain that religion contributes to retrieving a sense of citizenship and provides cultural resources for social diagnosis. However, sociological studies also indicate challenges in religious social engagement because religious adherents’ attempts to articulate theological ideals for ethics in the public sphere often create friction. While examining examples of this reality, this course also explores how religious groups and individuals may engage constructively in three contemporary problem areas: the criminal justice system, national security, and minority rights. Through this course, students can gain basic knowledge of contemporary social theories of religion, Christian ethics, and political theology; learn to analyze social problems both sociologically and theologically; and critically examine the potentiality and limitations of religion’s role in the modern age. （和訳）宗教の現代的社会理論、キリスト教倫理、政治神学の基本的知識を習得し、社会学的かつ神学的に社会的課題を分析すること、さらに現代における宗教の役割の可能性と限界を批判的に考察することを目指します。キリスト教会の礼拝出席者数の減少を理由として現代社会の「世俗化」が主張される一方で、宗教はいまだ人々の倫理的・政治的生活に深く浸透しているとの主張もあります。授業では宗教団体や個人が刑事司法制度、安全保障、マイノリティの権利といった現代的課題にいかに建設的に関与できるか等の課題も扱います。講義形式で行います。	隔年
Global Studies Ⅶ: Religion and Society in Japan	This course aims to analyze various religions’ functions as social systems in contemporary Japan by using empirical data. Although Japan is considered to be one of the least religious countries in the world, arguably religion still plays a significant role in Japanese people’s private and public lives. This phenomenon may be observed in the intersections of various spheres, such as Shinto and politics, Buddhism and views of life and death, new religious movements and their political campaigns, the Aum Affair and violence, spirituality and tourism, and religiosity and robotic technology. Through lectures, student presentations, class discussions, and field trips to local religious sites, students are expected not only to gain knowledge about relationships between religion and society in Japan but also to develop critical skills for examining their own operative views of religion. （和訳）現代日本の社会システムとしての多様な宗教的機能を経験的データを用いて分析します。授業では、神道と政治、仏教と死生観、新興宗教と政治活動、オウム真理教事件と暴力、スピリチュアリティとツーリズムといった領域にみられる私的・公的な宗教の役割について取り扱います。プレゼンテーション、ディスカッション等を通して、日本の宗教と社会に関する知識を得るだけではなく、宗教に対する自らの見解を考察する批判力を養うことが期待されています。講義形式で行います。	隔年

	Global Studies Ⅷ: Japan Encounters the West	In this course, students will explore perspectives on Japanese culture and theology by reflecting on various encounters seen through a multi-layered set of lenses, including: (1) encounters between the first Western missionaries to Japan and the Japanese people, seen through the eyes of a modern Japanese author struggling to understand Christianity in Japan; (2) encounters between prominent Japanese authors and the Western world, seen through the eyes of a Christian Japanese-American artist grappling with his bicultural identity and faith; and (3) encounters between the cultural, religious, and material worlds shaping that artist's work and this class' highly diverse members. These lenses on encounter come through close reading and weekly discussion of Shusaku Endo's novel Silence and Makoto Fujimura's book Silence and Beauty, as well as forays into other areas of cultural and theological significance. Ultimately this course seeks students' more perceptive understanding of Japan and themselves as they continue encountering Christ and one another in a Japanese context, all the while honing analytical methods and tools for imaginative, empathetic, and critical appreciation of other cultures and theologies. (和訳) 日本と西洋の多彩な遭遇を多様な視点から振り返ることで日本文化と神学を考察します。「遭遇」には、①日本のキリスト教理解に苦しんだ日本人作家の目から見た、西洋から日本への宣教師と日本人の初期の遭遇、②自らのアイデンティティと信仰の問題に取り組んだ日系アメリカ人クリスチャン芸術家の目から見た、著名な日本人作家と西洋世界の遭遇、③芸術的作品を生み出す文化的・宗教的・物質的世界と、多様な受講生の遭遇が含まれます。学生が、日本と自身への理解を深め、他の文化及び神学への創造的、共感的、批判的評価のための分析的方法を磨くことを目指します。講義形式で行います。	隔年
	Global Studies Ⅹ: Crucial Issues in Asia	This course covers critical issues existing in the church and world in selected areas of Asia outside of Japan, examining in detail selected issues deemed most pressingly relevant by the instructor. This course requires the analytical participation of all students in the discussion of each issue addressed since this course is as much about students' thoughtful and informed opinions when engaging with written material as the various texts' or papers' articulated opinions. (和訳) 日本以外のアジア各地における教会と社会の重要課題を扱います。取り上げるテーマは、アジア世界に影響を与える文化と世界観、包括的ミニストリー、貧困とアジアの教会、アジアにおけるイスラム教徒・仏教徒とキリスト教、新興仏教とキリスト教の宣教、アジアにおける宣教的教会等です。授業では、多様な資料に取り組む際の受講生の考察と見解が重視され、ディスカッションにおいて、各課題に対する受講者全員の分析的参加が求められます。講義形式で行います。	隔年

統合科目	専門演習	積み上げてきた学びの知見を活用し、学生が主体的に考え、行動する力を獲得することを到達目標としています。自らが履修モデルを通して選んだ、神学、およびその周辺分野での専門的な学びに、教員の指導のもと、学生が主体的に取り組みます。研究、発表、討議を中心に、ゲスト・スピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、ユニークな取り組みが展開されます。3年次、および4年次に提供される科目です。演習形式で行います。	オムニバス(一部)
	実習A	広く神学に関わる特定の職務の過程を意図的に学修者が実行することを通して、その準備や実行の手続きを含む過程を学ぶことに加え、その職務についての体験的認識と理解を深め、社会の中で活躍するための実践的能力や協働力を身につけるために提供される科目です。実習の現場も、教員の指導のもと、学生自身が主体的に選ぶことが求められます。実習Aは実質10日間以上の期間で行われ、キリスト教福祉、ユーススタディーズ等の実習が含まれます。3年次、および4年次に提供される科目です。実習形式で行います。	
	実習B	広く神学に関わる特定の職務の過程を意図的に学修者が実行することを通して、その準備や実行の手続きを含む過程を学ぶことに加え、その職務についての体験的認識と理解を深め、社会の中で活躍するための実践的能力や協働力を身につけるために提供される科目です。実習Bは実質20日間以上の期間で行われます。3年次、および4年次に提供される科目です。実習形式で行います。	
	実習C	広く神学に関わる特定の職務の過程を意図的に学修者が実行することを通して、その準備や実行の手続きを含む過程を学ぶことに加え、その職務についての体験的認識と理解を深め、社会の中で活躍するための実践的能力や協働力を身につけるために提供される科目です。実習Cは実質30日間以上の期間で行われます。3年次、および4年次に提供される科目です。実習形式で行います。	
	卒業研究	教員の指導を受けつつ、学生が1年間をかけて研究を行います。研究の内容は、神学、および隣接する諸分野の中から、学生の興味や将来の進路に沿って自由に選ぶことができます。ひとつのトピックについて主体的にじっくりと学ぶことで、該当分野での専門性を身につけつつ、将来の働きや学びに備えます。卒業研究の成果は、卒業前の論文発表会で発表します。3年次、および4年次に提供される科目です。実習形式で行います。	

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

学校法人東京キリスト教学園　設置認可等に関わる組織の移行表

2020年(令和2年)度	入学定員	編入学定員	収容定員
東京基督教大学			
神学部			
神学科	17	3年次14	96
国際ｷﾘｽﾄ教福祉学科	16	－	64
計	33	3年次14	160

2021年(令和3年)度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東京基督教大学				
神学部				
総合神学科	33	3年次14	160	学科の設置（届出）
(廃止)	0	－	0	2021(令和3)年4月学生募集停止
計	33	3年次14	160	

東京基督教大学大学院			
神学研究科			
神学専攻(M)	18	－	36
神学専攻(D)	2	－	6
計	20	－	42

東京基督教大学大学院			
神学研究科			
神学専攻(M)	18	－	36
神学専攻(D)	2	－	6
計	20	－	42